

平成24年8月教育委員会会議の要旨

1 日 時

平成24年8月23日(木)

開会 14時 閉会 16時17分

2 場 所

教育庁教育委員会室

3 出席委員

委員長	村上 智真
委員長職務代理者	清水 則一
委員長職務代理者	稲野 靖枝
委員	山縣 俊郎
委員	岡野 芳子
委員(教育長)	田邊 恒美

4 出席者

教育次長	上野 清
教育次長	竹本 芳朗
審議監	小西 哲也
教育政策課長	河村 邦彦
教職員課長	田坂 祐治
義務教育課長	桑原 一郎
高校教育課長	廣川 晋
特別支援教育推進室次長	石本 正之
社会教育・文化財課長	大嶋 弘行
人権教育課長	尾崎 敬子
学校安全・体育課長	中村 充範
教育政策課企画監	濱井 昭巳
やまぐち総合教育支援センター次長	十河 悟
学校安全・体育課学校安全管理監	清時 崇文

議案第1号 『山口県教育委員会の権限に属する事務の点検・評価について』

【概要】

1 点検・評価の概要

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第27条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、学識経験者の知見を活用しながら点検・評価を行い、その報告書を議会に提出して、公表することが義務づけられており、法の規定に基づき実施するもの。
- 教育委員会の活動状況と「山口県教育ビジョン 第3期重点プロジェクト推進計画」の施策体系に基づいた事務事業の実施状況の2点を対象に、教育委員会独自に実施。

2 教育委員会の活動状況

- 平成23年度は20回の教育委員会会議等を開催し、議案、報告、協議、合計102の案件を扱った。
- 平成23年7月には、移動教育委員会を宇部市で開催し、多くの県民の方が傍聴されるとともに、地域の教育関係者との意見交換を行った。
- 会議では、議案の審議とは別に、様々な教育課題について意見交換を行った。
- 会議の場以外でも公安委員等と意見交換を行った。
- 県内視察として、11校の学校（キャンパスを含む。）を訪問し、授業参観や教員等と協議を行った。
- また、教育委員（教育長を除く。）全員の視察では、校長や教員との座談会を実施した。
- 総括としては以下のとおり。
 - ・ 教育委員会会議における議案審議や協議を行う中で、山口県スポーツ推進条例に示される基本理念等を踏まえた施策の方向性を示す『山口県スポーツ戦略プラン』や平成24年度から平成26年度までの『県立高校再編整備計画』や『山口県人材育成基本方針』など、教育行政に係る重要な方針を決定した。
 - ・ 活発な意見交換や教育現場の視察、教員との座談会等の実施により、地域の声や、教育現場の実態の把握に努めた。
 - ・ 今後も、本県の実情に応じた教育行政の一層の推進を図るため、教育委員会活動のさらなる活性化をしていく必要がある。

3 教育委員会の事務事業の実施状況に係る点検・評価

- 第3期重点プロジェクト推進計画に掲げた10の重点プロジェクトごとに、各重点プロジェクトの重点取組事項の進捗状況と夢チャレンジ指標の達成状況の一つずつ点検し、それらを総合して各重点プロジェクトの評価を行った。
- 重点取組事項の進捗状況は、『取組は順調』＝『a』、『取組の一部に課題はある

が、概ね順調』＝『b』、『取組に課題あり』＝『c』の3段階で表し、夢チャレンジ指標の達成状況も、『目標値に達成済』＝『a』、『目標値に向け、概ね順調』＝『b』、『目標達成に向け、加速化が必要』＝『c』の3段階で表した。

- 各重点プロジェクトの総合評価については、重点取組事項の進捗状況と夢チャレンジ指標の達成状況の点検結果を評価表に当てはめ、『順調』、『一部に課題はあるが概ね順調』、『取組の改善・強化が必要』の3段階で表した。

		重点取組事項の進捗状況		
		a	b	c
夢チャレンジ指標 達成状況	a	A	B	
	b			
	c			

A=順調
B=一部に課題はあるが概ね順調
C=取組の改善・強化が必要

- 総合評価は、定量的な点検である夢チャレンジ指標の達成状況に重きを置いた。
- また、山口県教育振興推進会議において、学識経験者の知見を活用し、意見や提言もいただいた。
- 平成21年度からの各重点プロジェクトの評価を記載し、各プロジェクトの進捗・改善の経年変化を追加した。

<各重点プロジェクトの評価>

1 自立する力育成プロジェクト 【評価】：一部に課題はあるが概ね順調

《プロジェクトの推進方向》

- ・ 新しい学習指導要領を踏まえた教育内容の充実を図り、子どもたち一人ひとりが自己にふさわしい在り方や生き方を実現しようとする意欲や態度、主体的に進路を選択できる能力等を身に付け、将来、社会の一員として、自立してたくましく生きていく力を育てる。

《点検・評価結果》

重点取組事項の進捗状況、夢チャレンジ指標ともに、点検の結果はbであり、重点プロジェクトの評価結果は、一部に課題はあるが概ね順調とした。

- ・ 小学校からのキャリア教育の推進や将来の夢や目標を持つ児童生徒の増加、高校の進路未決定者の割合の改善については、順調に進んでいるが、高校の体験入学への参加や高校生のインターンシップについては課題が残る。
- ・ これらの取組を一層強化し、依然として厳しい雇用情勢の中、高校生の進路未決定者の割合の減少や就職決定率の向上も図ることとしている。

2 確かな学力育成プロジェクト

【評価】：一部に課題はあるが概ね順調

《プロジェクトの推進方向》

- ・ 児童生徒が社会の中で自立して生きていけるよう、基礎的・基本的な知識・技能の習得や知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、さらには、学習意欲等の育成を図る。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況はaであるが、夢チャレンジ指標の状況は、授業研究を伴う校内研修を実施している学校の割合（年5回以上）が目標値に比べ伸びていないことからbであり、重点プロジェクトの評価結果は、一部に課題はあるが概ね順調とした。

- ・ 指導の改善・強化に向け、全ての小学校で学力向上プランが、また、全ての高校でシラバスを作成している。
- ・ PDCAサイクルによる授業改善として、授業研究を行う校内研修の実施状況に課題があるものの、児童生徒による授業評価の実施、やまぐち学習支援プログラムの充実と活用などの取組により、目標の達成に向け、順調に推移している。
- ・ 児童生徒による授業評価の実施、やまぐち学習支援プログラムの充実と活用などの取組により、目標の達成に向け、順調に推移している。
- ・ 家庭や地域と一体となった学力向上に向け、学力等の状況等についての情報提供や、やまぐち学習支援プログラムの充実、博物館と学校・地域の連携による学習支援などを積極的に進め、これらの取組に係る指標については、目標を達成しているが、引き続き、家庭学習の習慣化に向けた取組を進めることとしている。

3 思いやりのある豊かな心育成プロジェクト

【評価】：一部に課題はあるが概ね順調

《プロジェクトの推進方向》

- ・ 子どもたち一人ひとりに、お互いを尊重し合う心や思いやりの心、善悪を判断する力や社会のルールを身につけるなど、豊かな人間関係を築くことができる力育む。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況はaであるが、夢チャレンジ指標の状況は、高等学校における豊かな心を育む学習プログラムや体験活動推進資料を活用した道徳教育を実施した割合や、ボランティア活動を実施した割合が目標値に比べ伸びていないことからbであり、重点プロジェクトの評価結果は、一部に課題はあるが概ね順調とした。

- ・ 道徳教育や人権教育に関しては、学習プログラムや視聴覚資料等の活用が進むとともに、実施手法の工夫による授業や研修内容の充実が図られているが、目標

の達成に向け、特に高等学校での取組を一層進める必要がある。

- ・ 新学習指導要領でも掲げられている体験活動の充実に関しては、学校での自然体験活動の内容や青少年教育施設での活動メニューが充実するとともに、専門的指導者も順調に増加しているが、ボランティア活動を実施した学校の割合について、目標達成に向け、取組を強化する必要がある。

4 子ども元気創造推進プロジェクト

【評価】：取組の改善・強化が必要

《プロジェクトの概要》

- ・ 「遊び、スポーツ」「食育」「読書」を一体的に取り組むなど、子どもたちの心と体の「元気」を創造し、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育てる。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況はbであるが、夢チャレンジ指標の状況は、体育の授業以外に毎日30分以上運動している児童生徒の割合、毎日朝食を摂っている児童生徒の割合、及び学校以外で月に1冊以上読書をしている児童生徒の割合が目標に比べ伸びていないことからcであり、重点プロジェクトの評価結果は、取組の改善・強化が必要とした。

- ・ 今後も、家庭や地域など学校以外での読書活動や運動習慣、食育について、より効果的な推進と取組の加速化を図るため、これらを一体として普及・啓発を図る必要がある。

5 きめ細かな指導体制づくり推進プロジェクト

【評価】：一部に課題はあるが概ね順調

《プロジェクトの推進方向》

- ・ 子どもたちの発達段階に応じ、一人ひとりが抱える様々な教育課題に適切に対応できるよう、きめ細やかな指導体制づくりを推進する。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況はaであるが、夢チャレンジ指標の状況は、高校生の就職決定率や総合支援学校における産業科の就職率などが目標に比べ伸びていないことからbであり、重点プロジェクトの評価結果は、一部に課題はあるが概ね順調とした。

- ・ 小・中学校の完全35人学級化やスクールカウンセラーの全中学校への配置、中学校における校区内の全小学校との連携教育の実施など、一人ひとりに対応したきめ細やかな指導体制づくりを着実に進めており、不登校やいじめ、暴力行為など生徒指導関連の指標も改善してきている。
- ・ 昨今の厳しい経済状況の中、高校生の就職決定率や、総合支援学校における産業科の生徒の就職率については、就職指導専門員や緊急求人開拓員等による求人開拓の強化、関係機関との連携の強化、総合支援学校における職業教育の充実な

どに取り組んでおり、昨今よりも改善しているが、引き続き、取組の強化が必要である。

6 学校の安心・安全と活力推進プロジェクト

【評価】：一部に課題はあるが概ね順調

《プロジェクトの推進方向》

- 子どもたちが安心して教育を受けることができるよう、学校施設の耐震化など、安心・安全な教育環境づくりに取り組むとともに、複雑・多様化する教育課題に的確に対応できるよう、学校の運営体制や指導体制等の充実を図り、活力ある学校づくりを進める。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況、夢チャレンジ指標ともに、点検の結果はbであり、重点プロジェクトの評価結果は、一部に課題はあるが概ね順調とした。

- 県立学校の施設耐震化は、平成23年度末までの耐震化率90%以上の目標を1年前倒しして達成したが、市町立小・中学校についても目標達成に向け、市町の実情に応じたきめ細かな指導・助言を行うなど、一層に加速化が必要である。
- 東日本大震災の発生を受け、地震や津波に対するマニュアルの整備等を行うとともに、スクールガードなど地域と一体となった取組の充実、携帯メールによる情報配信システムの整備、交通安全の推進にも引き続き取り組んでいるが、今後は、特に防災に関して、専門知識を有するアドバイザー等を活用した学校防災体制の検証等も必要である。

7 県民総参加による教育推進プロジェクト

【評価】：一部に課題はあるが概ね順調

《プロジェクトの推進方向》

- 子どもたちが、様々な社会体験活動等を通して健やかに成長することができるよう、地域社会が教育活動に積極的に参画できる体制を構築し、社会全体で教育の向上に取り組む
- 県民が社会の中で充実した生活を送ることができるよう、生涯学び続けることができる環境づくりを進める。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況はaであるが、夢チャレンジ指標の状況は、生涯学習情報システム閲覧件数が目標に比べて伸びていないことからbであり、重点プロジェクトの評価結果は、一部に課題はあるが概ね順調とした。

- 地域と学校が一体となった教育の取組を進めるため、コミュニティ・スクールの活用をはじめ、地域の人材による組織的な学校支援活動、放課後子ども教室、

やまぐち教育応援団などの充実に取り組んでいる。

- ・平成25年開催の日本ジャンボリー、平成27年開催の世界スカウトジャンボリーの円滑な開催に向け、組織体制づくりやプログラム作成等の開催準備の支援を着実に進める必要がある。
- ・生涯学習の推進に関しては、情報提供や学習機会の充実に努めているが、引き続き、生涯学習情報提供システムの活用に向け、周知啓発に取り組む必要がある。

8 家庭教育応援プロジェクト

【評価】：順調

《プロジェクトの推進方向》

- ・家庭生活を通して、子どもたちの基本的な生活習慣や倫理観、社会性等が身につくよう、家庭の教育力の向上を図る。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況、夢チャレンジ指標ともに、点検の結果はaであり、重点プロジェクトの評価結果は、順調とした。

- ・家庭教育の充実に向け、特に父親の家庭教育への参加を促すため、企業等との連携による家庭教育出前講座やおやじの会の設立などに取り組んだ結果、指標達成に向け、順調に推移している。
- ・家庭教育に関する相談・支援体制の充実については、地域子育て支援センターの設置数が引き続き増加するとともに、家庭教育アドバイザー養成講座の修了者数も目標を達成するなど、一定の成果を上げている。
- ・今後も、地域協育ネットの推進、専門機関による相談・支援体制の一層の充実等の取組により、家庭の教育力の向上を図る。

9 文化にふれあい文化に親しむ環境づくり推進プロジェクト

【評価】：順調

《プロジェクトの推進方向》

- ・子どもたちの豊かな感性を育み、文化への理解や文化活動への参加を促進するため、優れた文化にふれあう機会の充実を図るとともに、本県の多彩な文化財や伝統・文化の保存・継承と活用の促進を図る。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況、夢チャレンジ指標ともに、点検の結果はaであり、重点プロジェクトの評価結果は、順調とした。

- ・文化にふれあい親しむ環境づくりを進めるため、県立博物館や図書館、美術館の改修工事をはじめ、優れた企画展の開催等、施設内容面での一層の充実を図るとともに、学校の芸術鑑賞の機会提供をはじめ、伝統文化公演で地域人材を活用するなど、地域の歴史や文化に対する理解促進を図っている。

- 文化財の保護・活用に向けた取組に関しては、文化財の指定件数が目標を達成するとともに、文化財Webページについても、閲覧件数が増加し、目標値を大きく上回っている。
- 若年層の文化財への関心を高める取組として、文化財Webページについて地域の歴史や文化を学びやすくするよう工夫を行っている。

10 『おいでませ！山口国体』等を契機とした県民スポーツ振興プロジェクト
【評価】：順調

《プロジェクトの概要》

- 平成23年に開催される「おいでませ！山口国体」等を契機とした競技力の向上や学校体育・スポーツの充実、豊かなスポーツライフの推進など、県民スポーツの総合的な振興を図る。

《点検評価結果》

重点取組事項の進捗状況、夢チャレンジ指標ともに、点検の結果はaであり、重点プロジェクトの評価結果は、順調とした。

- ジュニア期からの一貫指導・育成システムによる選手の育成・強化や、指導者の育成確保などの競技力の向上を図る取組により、山口国体での目標を達成するとともに、山口国体・山口大会を契機として県民のスポーツへの関心も高まった。
- 新たに策定したスポーツ推進条例やスポーツ戦略プランにより、全ての県民が日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画し、生涯スポーツ社会の実現や競技水準の向上、スポーツを通じた地域づくりなどに取り組むこととしている。

評価結果一覧

基本的方向	重点プロジェクト	重点取組事項			夢チャレンジ指標			総合評価		
		H21	H22	H23	H21	H22	H23	H21	H22	H23
I 一人ひとりの学力を育み、自分らしさを生かして未来に羽ばたく力を育てます	1 自立する学力育成プロジェクト	b	b	b	b	b	b	B	B	B
	2 確かな学力育成プロジェクト	b	b	a	b	b	b	B	B	B
II 豊かな心や健やかな体づくりを進め、子どもたちの元気を創造します	3 思いやりのある豊かな心育成プロジェクト	b	b	a	b	b	b	B	B	B
	4 子ども元気創造推進プロジェクト	b	b	b	c	c	c	C	C	C

Ⅲ 子どもたちの豊かな学びを支えるため、質の高い教育環境づくりを進めます	5 きめ細かな指導体制づくり推進プロジェクト	b	b	<u>a</u>	b	b	<u>b</u>	B	B	<u>B</u>
	6 学校の安心・安全と活力推進プロジェクト	b	b	<u>b</u>	c	b	<u>b</u>	C	B	<u>B</u>
Ⅳ 家庭や地域の教育力を高め、連携・協力を強化し、県民総参加の教育の実現に向けて取り組みます	7 県民総参加による教育推進プロジェクト	b	b	<u>a</u>	b	b	<u>b</u>	B	B	<u>B</u>
	8 家庭教育応援プロジェクト	b	b	<u>a</u>	b	b	<u>a</u>	B	B	<u>A</u>
Ⅴ 夢や感動があふれ、人と地域が輝く、豊かな文化と活力あるスポーツの振興を図ります	9 文化にふれあい文化に親しむ環境づくり推進プロジェクト	b	b	<u>a</u>	b	b	<u>a</u>	B	B	<u>A</u>
	10「おいでませ！山口国体」等を契機とした県民スポーツ振興プロジェクト	b	a	<u>a</u>	c	b	<u>a</u>	C	B	<u>A</u>

◆ 外部有識者の知見の活用

8月3日に教育、医療、経済界、PTAなど各分野で教育に携わられている専門家で構成する山口県教育振興推進会議を開催した。

《主な意見》

- 各重点プロジェクトと夢チャレンジ指標が必ずしも整合していないとともに、夢チャレンジ指標の設定根拠をはっきりさせる必要があるのではないか。
- 点検・評価における各プロジェクトにおける成果や、さらなる課題が何か明確に記述した方がよいのではないか。
- 事務局の自己評価だけでなく、教育現場からの評価や外部評価など、自己評価とは別の評価体型の検討が必要ではないか。

【主な意見】

- 清水委員：点検・評価を行う上で、各プロジェクトの目標に対してどのような課題があるのか明確にし、さらにその課題についてどのように取り組んでいくかが重要である。
- 清水・稲野委員：夢チャレンジ指標がプロジェクトの目標を示す指標であるか、再度確認することも必要ではないか。
- 清水委員：夢チャレンジ指標を設定する際には、その指標が教育委員会、学校、教員、さらには保護者や地域の方との連携により実現できる指標であるか考慮することが必要ではないか。
- 稲野委員：目標達成が困難な指標であっても、その指標の伸び率など努力した部分を評価するなど、評価方法の見直しが必要ではないか。
- 教育政策課長：夢チャレンジ指標が各プロジェクトの目標の実現に直接的につながるものか、県教育委員会を含めた教育関係者の取組により、その指標が達成可能なものか、次回の指標作成時には考慮したい。
- 山縣委員：教育目標を数値化し、点検・評価することも重要であるが、数値化できない取組の良さも評価するべきではないか。
- 山縣委員：現在の各プロジェクトの総合評価方法は、重点取組事項の進捗状況と、夢チャレンジ指標の組合せにより行っているが、より理解を得やすい評価方法の検討が必要ではないか。
- 教育政策課長：今後の課題として、検討させていただく。
- 岡野委員：今年度の点検・評価を踏まえ、評価の低かった事業をどのように改善するのか、また、その改善をどのように次期教育振興基本計画につなげていくのか、検討をする必要がある。
- 岡野委員：夢チャレンジ指標の目標値を達成している事業について、さらに高い目標値を設定する必要がある。

報告事項

◆『平成24年度全国学力・学習状況調査結果』について報告された。

【概要】

1 平成24年度全国学力・学習状況調査の概要

○目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査期日

平成24年4月17日（火）

○調査方式

抽出調査 山口県 小学校98校 第6学年3,745人
中学校80校 第3学年5,948人

※山口県の抽出率 全体38.0%(小学校31.6%、中学校50.6%)
全 国の抽出率 全体30.4%(小学校24.8%、中学校41.5%)

○調査内容

①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ・国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題
- ・理科：主として「知識に関する問題」と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

2 教科に関する結果

①全体の結果

- 平均正答数を山口県と全国とで比べると、小・中学校ともに、全国平均を上回る結果である。
- 今回新たに実施された理科については、小・中学校ともに全国平均を上回る結果である。
- 小学校の算数Bの平均正答数は、全国平均を下回る結果である。
- 中学校では、平成21年度の小学校6年生時点での調査結果と比較し、大きく伸びている。

②各教科の結果

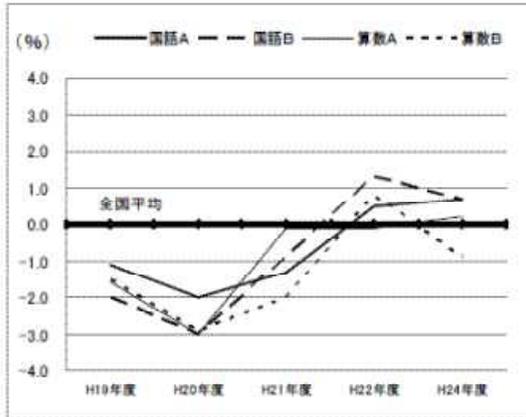
ア 全国の平均正答数との比較

【小学校】	平均正答数(問)	
	山口県	全 国
国語A	14.0/17	13.9/17
国語B	6.2/11	6.1/11
算数A	14.0/19	13.9/19
算数B	7.5/13	7.7/13
理 科	14.7/24	14.6/24
合 計	56.4/84	56.2/84

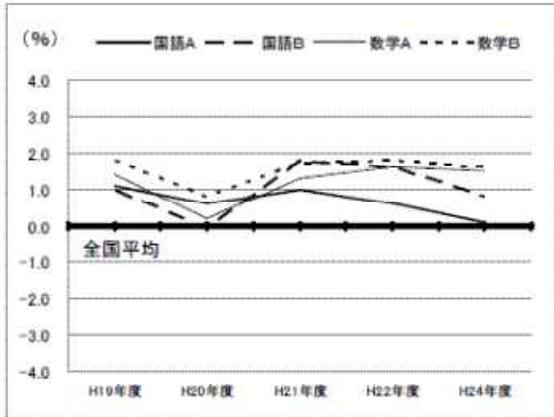
【中学校】	平均正答数(問)	
	山口県	全 国
国語A	24.1/32	24.0/32
国語B	5.8/ 9	5.7/ 9
数学A	22.9/36	22.4/36
数学B	7.6/15	7.4/15
理 科	13.7/26	13.3/26
合 計	74.1/118	72.8/118

イ 全国の平均正答率との比較

【小学校】



【中学校】



※ 縦軸は、山口県と全国の平均正答率の差（％）を表している。

ウ 全国の平均正答率（95%信頼区間）との比較

※ 文部科学省は、抽出調査であることを踏まえ、「平均正答率（推計値）」と誤差を含めた幅をもった数値「平均正答率の95%信頼区間」を併せて公表している。

【小学校】

○ 国語A、国語B、算数A、理科の平均正答率については、全国平均を上回っている。

区分	平均正答率 (95%信頼区間)		目盛りは誤差の値 (%)					
	山口県	全国	-2	-1	0	1	2	3
国語A	山口県	82.3 (81.7~82.9)						
	全国	81.6 (81.4~81.7)						
国語B	山口県	56.3 (55.3~57.4)						
	全国	55.6 (55.4~55.8)						
算数A	山口県	73.5 (72.6~74.4)						
	全国	73.3 (73.1~73.5)						
算数B	山口県	58.0 (57.0~59.1)						
	全国	58.9 (58.7~59.1)						
理科	山口県	61.2 (60.3~62.2)						
	全国	60.9 (60.8~61.1)						

【中学校】

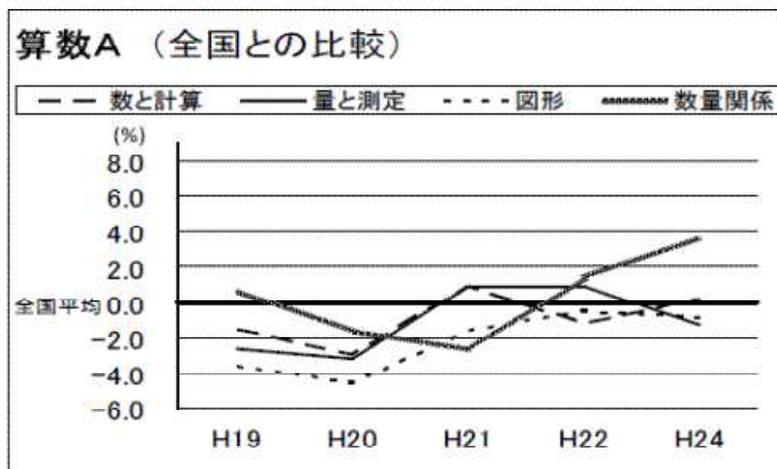
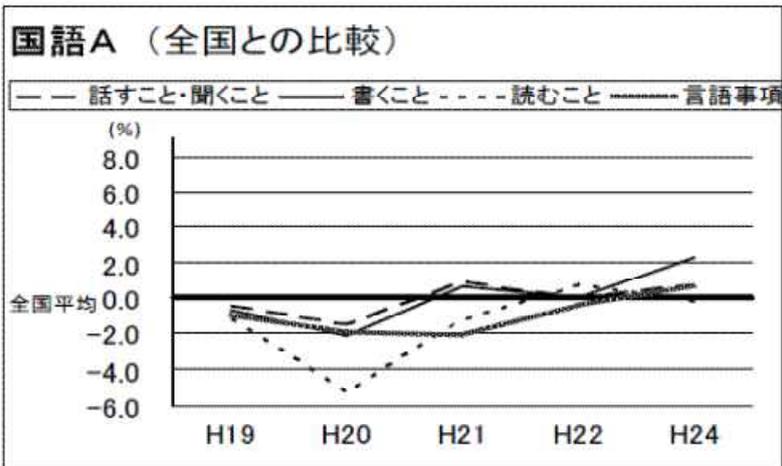
○ 全ての教科の平均正答率が、全国平均を上回っており、特に、数学A、数学B、理科については、平均正答率の95%信頼区間をみると、全国よりも高い状況にあるといえる。

区分	平均正答率 (95%信頼区間)		目盛りは誤差の値 (%)				
		(%)	-2	-1	0	1	2
国語A	山口県	75.2 (74.7~75.8)					
	全国	75.1 (75.0~75.2)					
国語B	山口県	64.1 (63.4~64.8)					
	全国	63.3 (63.2~63.4)					
数学A	山口県	63.6 (62.8~64.4)					
	全国	62.1 (62.0~62.3)					
数学B	山口県	50.9 (49.8~51.9)					
	全国	49.3 (49.2~49.5)					
理科	山口県	52.6 (51.9~53.3)					
	全国	51.0 (50.9~51.1)					

エ 領域別平均正答率（「知識」に関する問題）

【小学校】

- 国語「知識」に関する問題について、領域別に比較すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」で全国平均を上回っており、特に「書くこと」に大きな伸びがみられる。また、算数「知識」に関する問題については、「数量関係」に大きな伸びが見られるものの、「量と測定」「図形」で全国平均を下回っている。



〔国語A〕

領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
話すこと・聞くこと	-0.5	-1.5	0.9	0.0	0.7
書くこと	-0.7	-2.1	0.6	0.0	2.3
読むこと	-1.2	-5.3	-1.3	0.7	-0.2
言語事項 [※]	-1.0	-2.0	-2.1	0.5	0.6

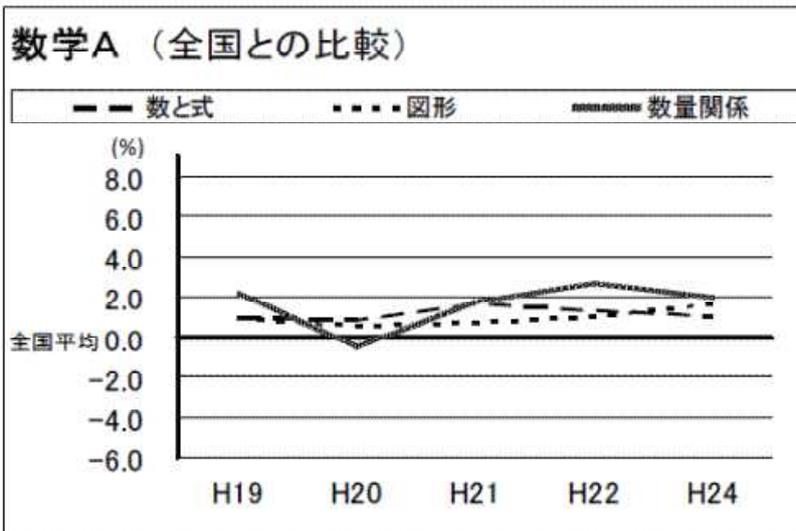
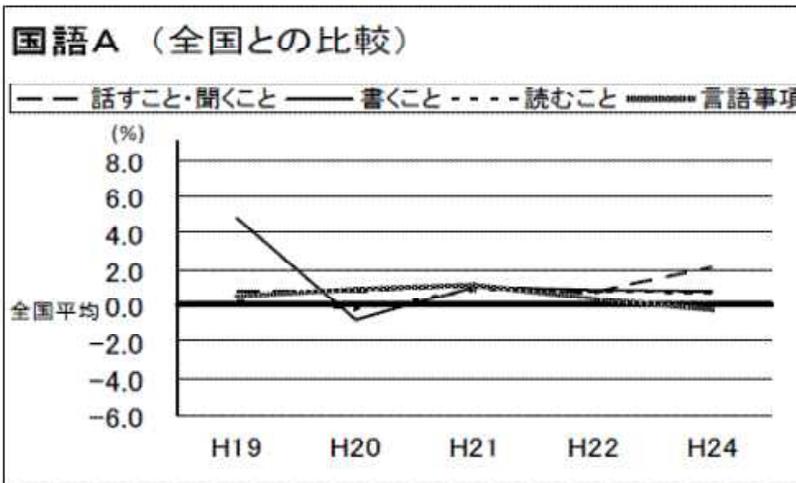
〔算数A〕

領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
数と計算	-1.5	-2.9	0.9	-1.2	0.2
量と測定	-2.6	-3.2	0.9	0.9	-1.3
図形	-3.6	-4.6	-1.6	-0.5	-0.9
数量関係	0.6	-1.7	-2.7	1.4	3.6

※「言語事項」とは、古典、文法、漢字・ローマ字、書写等に関する内容。平成24年度からの領域名は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。

【中学校】

- 国語「知識」に関する問題について、領域別に比較すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均を上回っている。また、数学「知識」に関する問題については、全ての領域で、全国平均を上回っている。



〔国語A〕

領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
話すこと・聞くこと	0.8	0.8	1.1	0.7	2.1
書くこと	4.8	-0.8	1.0	0.9	0.8
読むこと	0.2	-0.2	0.9	0.8	0.7
言語事項	0.5	0.9	1.1	0.3	-0.3

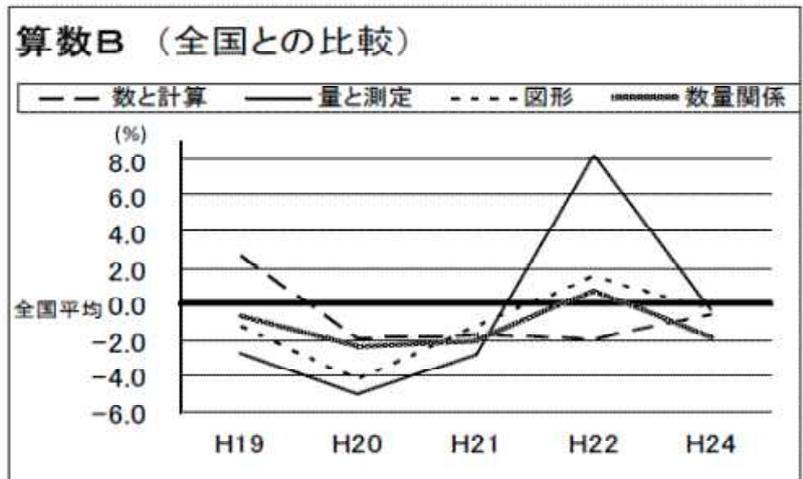
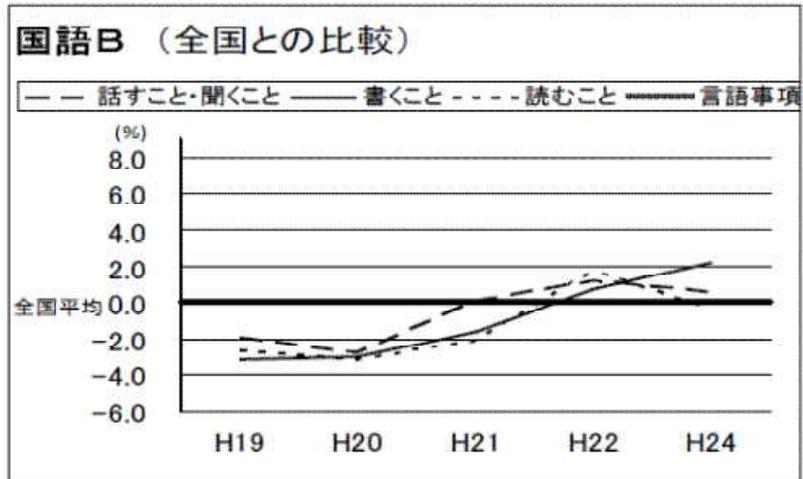
〔数学A〕

領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
数と式	0.9	0.8	1.6	1.3	1.0
図形	0.9	0.5	0.7	1.0	1.6
数量関係	2.2	-0.6	1.7	2.6	1.9

オ 領域別平均正答率（「活用」に関する問題）

【小学校】

○ 国語「活用」に関する問題について、領域別に比較すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国平均を上回っており、特に「書くこと」に大きな伸びがみられるものの、「読むこと」で全国平均を下回っている。また、算数「活用」に関する問題については、全ての領域で全国平均を下回っている。



〔国語B〕

領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
話すこと・聞くこと	-1.9	-2.8	0.1	1.2	0.6
書くこと	-3.2	-3.0	-1.6	0.7	2.2
読むこと	-2.7	-3.2	-2.1	1.7	-0.4
言語事項*	-2.3	-	0.0	-	0.1

〔算数B〕

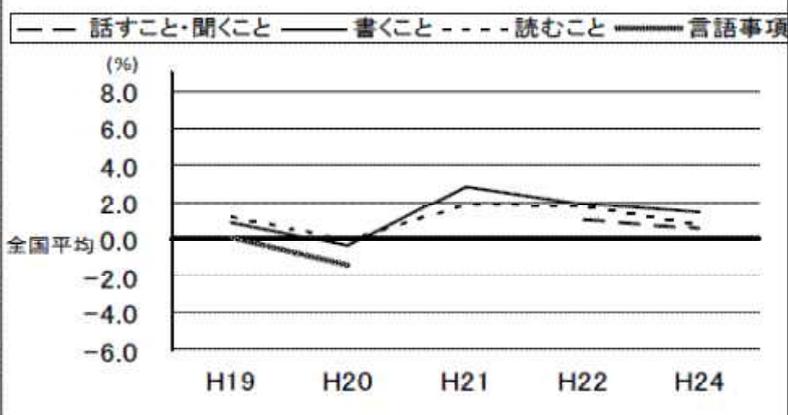
領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
数と計算	2.7	-1.9	-1.7	-1.9	-0.6
量と測定	-2.7	-5.0	-2.8	8.2	-0.4
図形	-1.2	-4.2	-1.2	1.5	-0.3
数量関係	-0.7	-2.4	-2.1	0.7	-1.9

*平成24年度からの領域名は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。

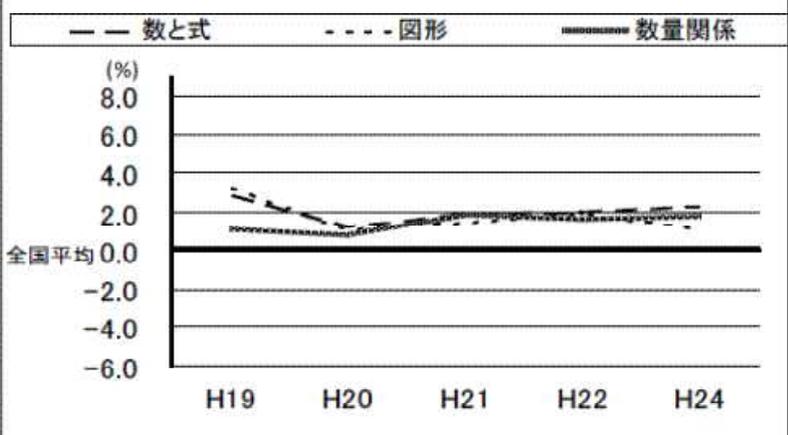
【中学校】

- 国語「活用」に関する問題について、領域別に比較すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国平均を上回っている。また、数学「活用」に関する問題については、全ての領域で全国平均を上回っている。

国語B（全国との比較）



数学B（全国との比較）



〔国語B〕

領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
話すこと・聞くこと	1.6	/	/	1.0	0.6
書くこと	0.9	-0.4	2.8	1.9	1.4
読むこと	1.2	-0.1	1.8	1.7	0.8
言語事項	0.0	-1.5	/	/	/

〔数学B〕

領域	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
数と式	2.8	1.2	1.9	2.0	2.3
図形	3.2	1.0	1.4	1.9	1.0
数量関係	1.0	0.7	1.8	1.6	1.7

カ 正答数ごとの分布

【小学校 国語】

- 「知識」に関する問題については、ほぼ全国と同様の分布状況にあり、平成22年度と同様に、正答数の多い児童の割合がやや高い傾向にある。
- 「活用」に関する問題については、全国と比べ11問全て正答した児童の割合が高い。

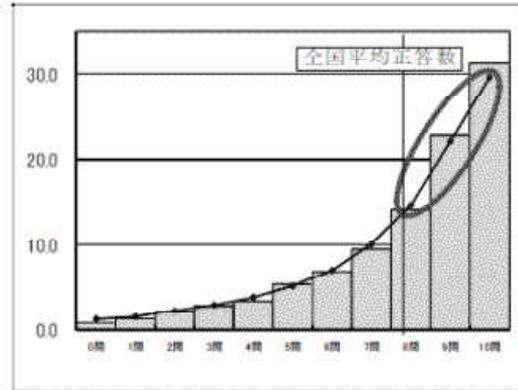
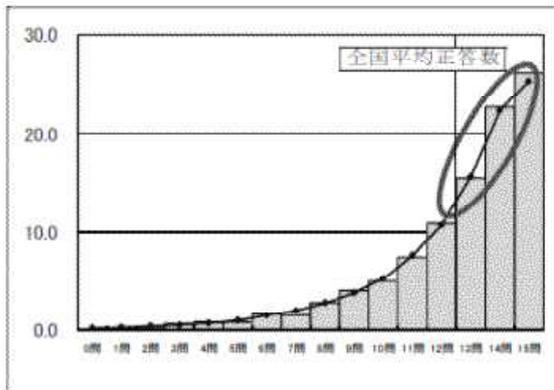
○ 「知識」に関する問題

○ 「活用」に関する問題

平成22年度

【国語A】

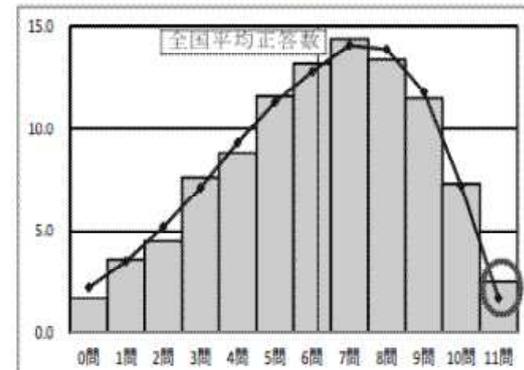
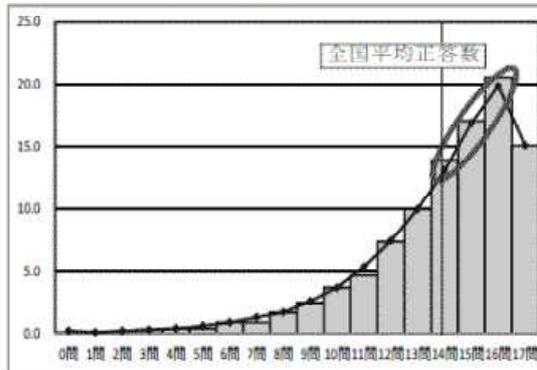
【国語B】



平成24年度

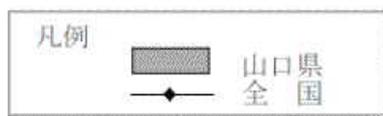
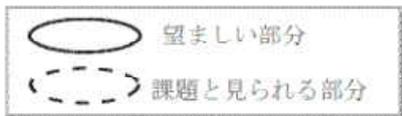
【国語A】

【国語B】



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。



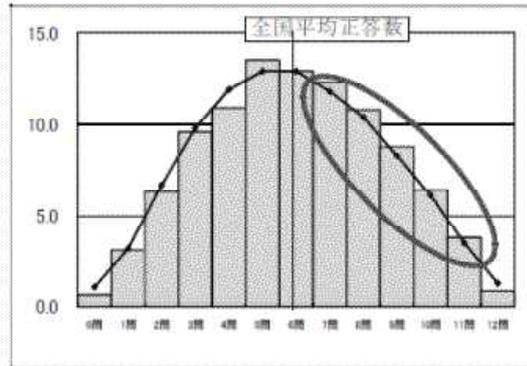
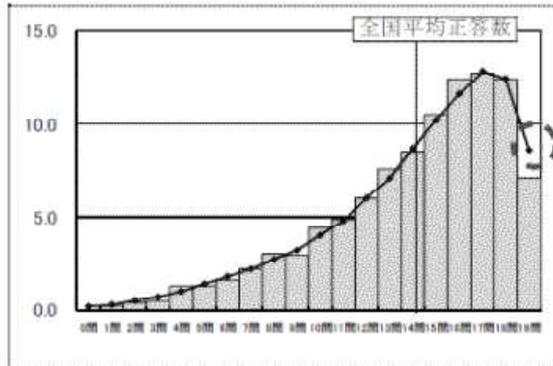
【小学校 算数】

○「知識」に関する問題については、全国と比べ正答数の多い児童の割合は低い。
 ○「活用」に関する問題については、全国と比べ正答数の多い児童の割合は低い傾向にあり、全国の分布状況よりやや左よりになっている。

○「知識」に関する問題
【算数A】

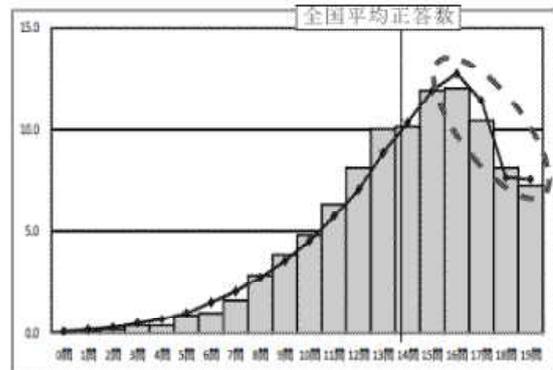
平成22年度

○「活用」に関する問題
【算数B】

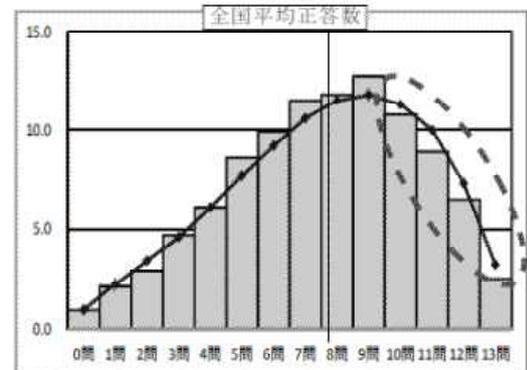


平成24年度

【算数A】



【算数B】



【中学校 国語】

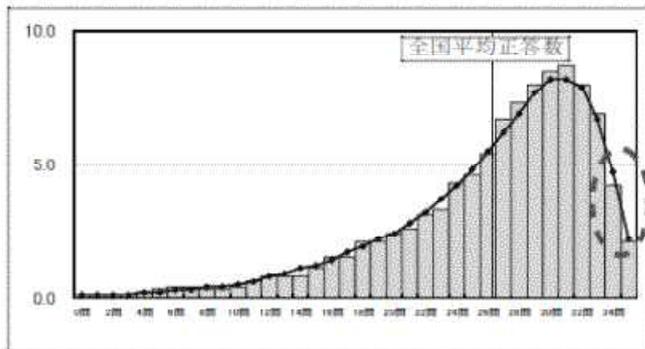
- 「知識」に関する問題については、ほぼ全国と同様の分布状況であるが、正答数の多い生徒の割合がやや低い傾向にある。
- 「活用」に関する問題については、最も正答数の多い生徒の割合が低い傾向にあるものの、全国と比べ正答数の多い生徒の割合が高い。

○「知識」に関する問題

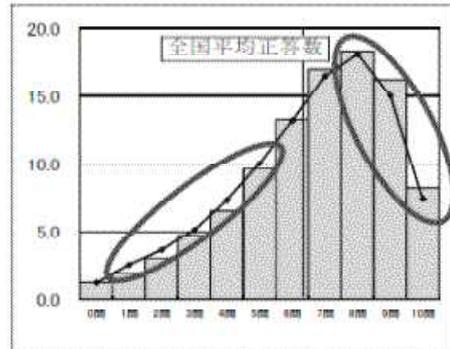
○「活用」に関する問題

平成22年度

【国語A】

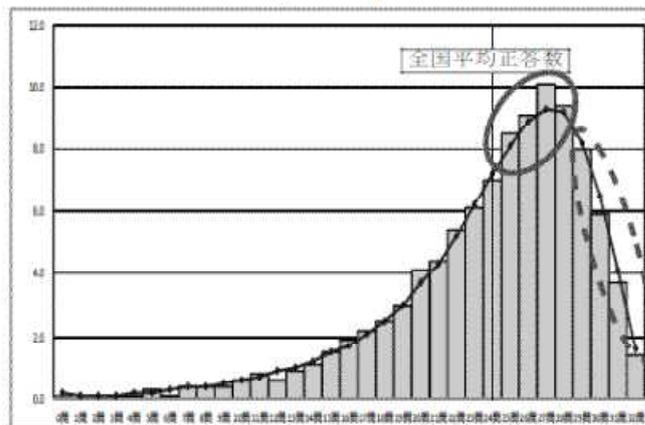


【国語B】

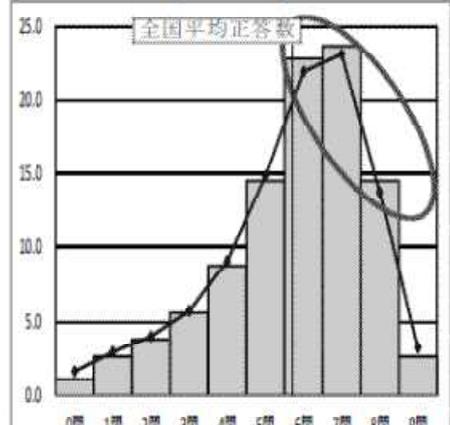


平成24年度

【国語A】



【国語B】



〔グラフについて〕

横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合（％）を示している。

○ 望ましい部分
 - - - 課題と見られる部分

凡例
 ■ 山口県
 ◆ 全国

【中学校 数学】

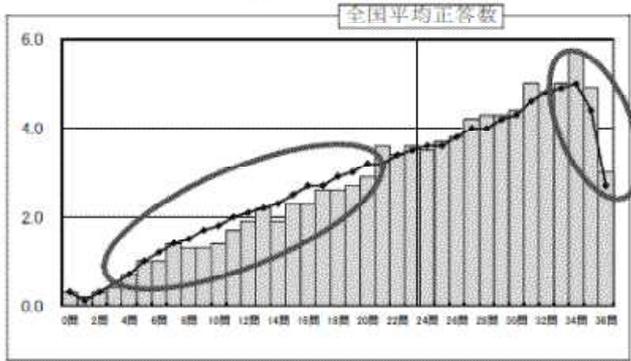
- 「知識」に関する問題については、平成22年度と同様に、全国と比べ正答数の多い生徒の割合が高く、正答数の低い生徒の割合が低い傾向にある。
- 「活用」に関する問題については、全国と比べ最も正答数の多い生徒の割合は低い傾向にあるものの、正答数の低い生徒の割合が低く、正答数の多い生徒の割合が高い。

○「知識」に関する問題

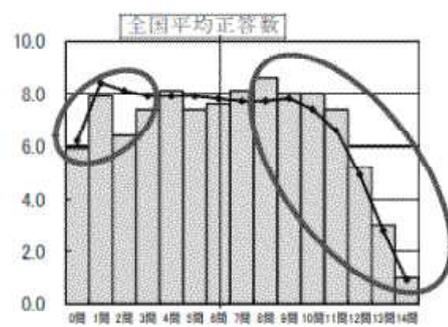
○「活用」に関する問題

平成22年度

【数学A】

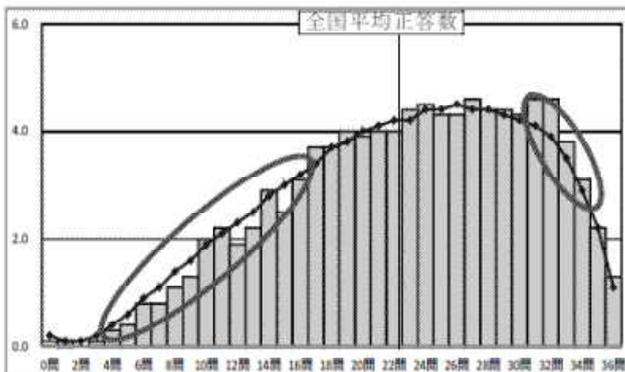


【数学B】

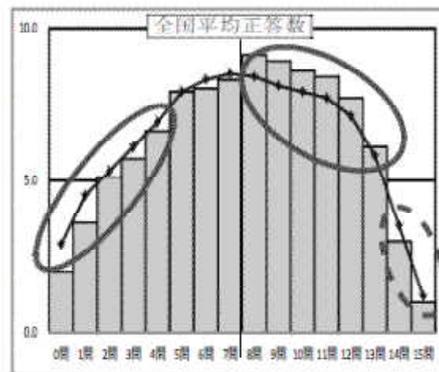


平成24年度

【数学A】

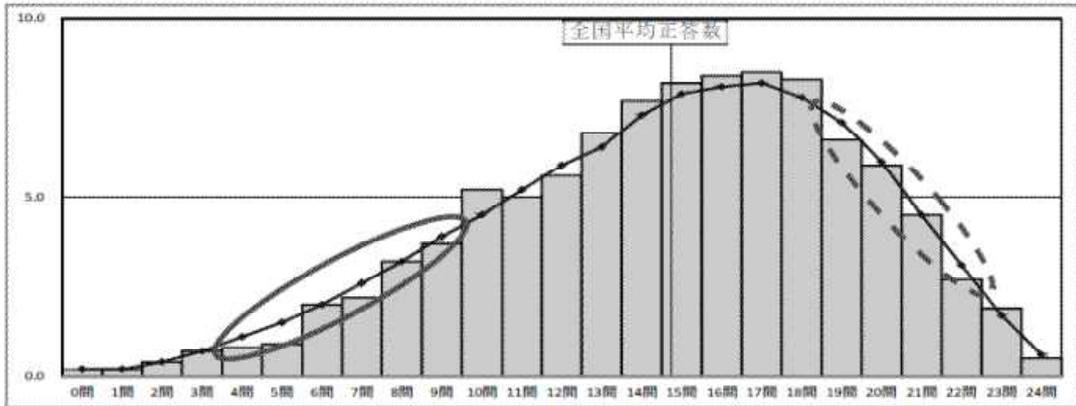


【数学B】



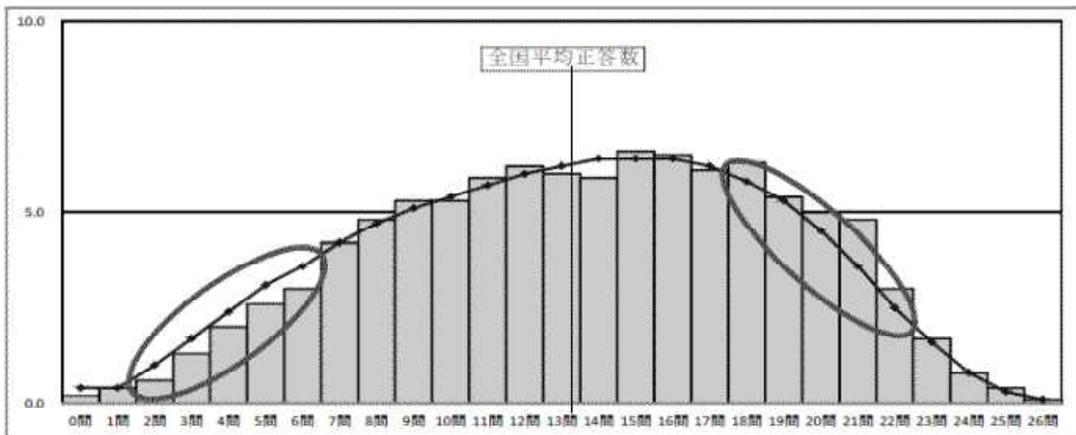
【小学校 理科】

○正答数の少ない児童の割合が全国より低く、正答数の多い児童の割合もやや低い傾向にあり、平均正答数近辺の児童の割合が高い。



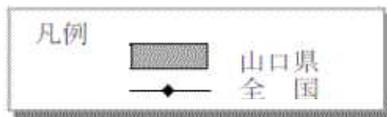
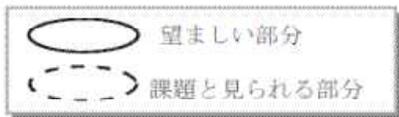
【中学校 理科】

○全国と比べて正答数の多い生徒の割合が高く、正答数の少ない生徒の割合が低い傾向にある。



〔グラフについて〕

横軸は児童生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童生徒の割合（％）を示している。



キ 各教科の特徴

【小学校国語】

国語Aについては、平均正答率（95%信頼区間）が82.3%（81.7～92.9）であり、知識・技能の定着に成果が見られる。国語Bについては、平均正答率（95%信頼区間）が56.3%（55.3～57.4）である、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

【小学校算数】

算数Aについては、平均正答率（95%信頼区間）が73.5%（72.6～74.4）であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。算数Bについては、平均正答率（95%信頼区間）が58.0%（57.0～59.1）であり、知識・技能の活用に課題が見られる。

【小学校理科】

平均正答率（95%信頼区間）が61.2%（60.3～62.2）であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用にやや課題が見られる。

【中学校国語】

国語Aについては、平均正答率（95%信頼区間）が75.2%（74.7～75.8）であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。国語Bについては、平均正答率（95%信頼区間）が64.1%（63.4～64.8）であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用にやや課題が見られる。

【中学校数学】

数学Aについては、平均正答率（95%信頼区間）が63.6%（62.8～64.4）であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。数学Bについては、平均正答率（95%信頼区間）が50.9%（49.8～51.9）であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

【中学校理科】

平均正答率（95%信頼区間）が52.6%（51.9～53.3）であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

3 質問紙調査の結果

①児童生徒質問紙（一部抜粋）

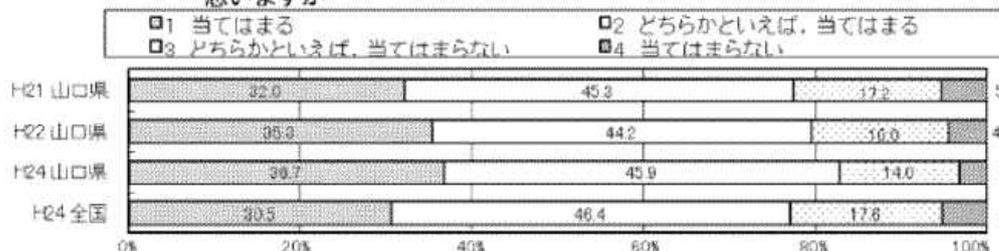
ア 自分の考えを発表する機会

自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童生徒の割合は、全国と比べて高い傾向が見られ、特に中学校においては、年々増加している。

【小学校】 (41) 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



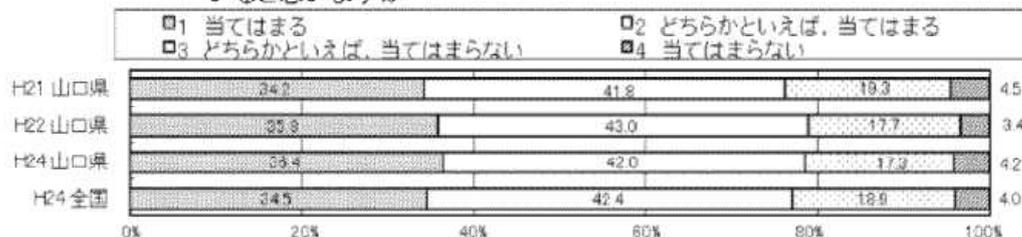
【中学校】 (41) 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



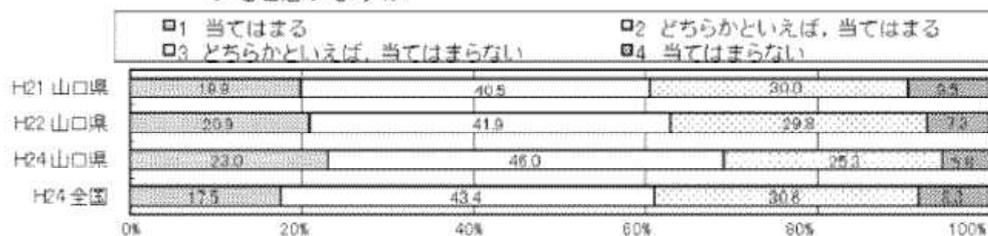
イ 授業での話し合う活動

授業の中で話し合う活動をよく行っていると思う児童生徒の割合は、全国と比べて高い傾向が見られ、特に中学校においては、年々増加している。

【小学校】 (42) 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



【中学校】 (42) 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



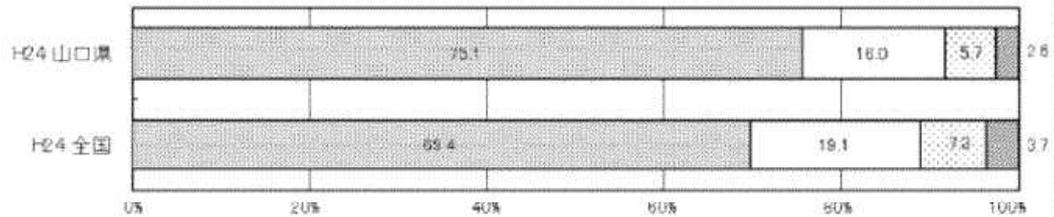
ウ 観察や実験

観察や実験を行うことが好きだと答えた児童生徒の割合は、全国と比べて高い傾向が見られ、特に小学校では中学校に比べてその割合が高くなっている。

【小学校】

(76) 観察や実験を行うことは好きですか

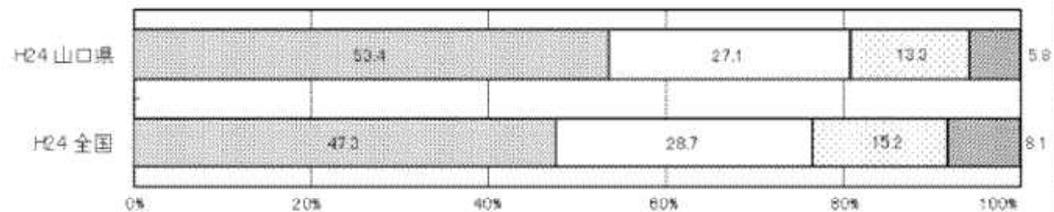
- 1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる
 □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】

(76) 観察や実験を行うことは好きですか

- 1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる
 □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



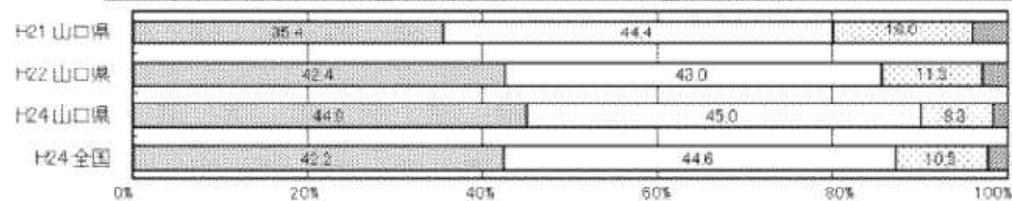
エ 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間が普段の生活や社会で役に立つと考えている児童生徒の割合は、全国と比べて高い傾向が見られる。

【小学校】

(39) 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

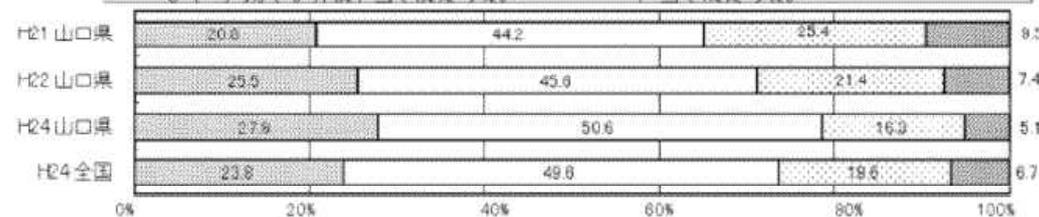
- 1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる
 □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】

(39) 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

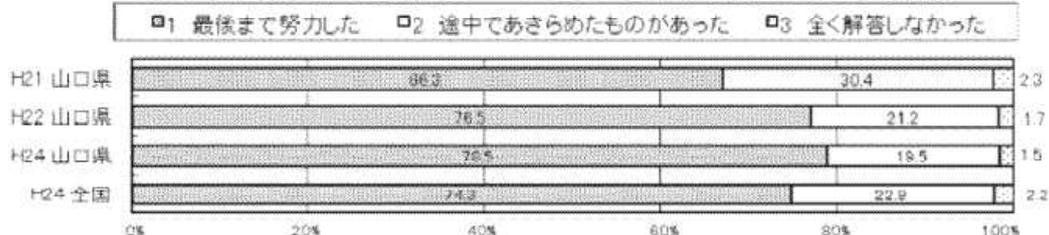
- 1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる
 □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



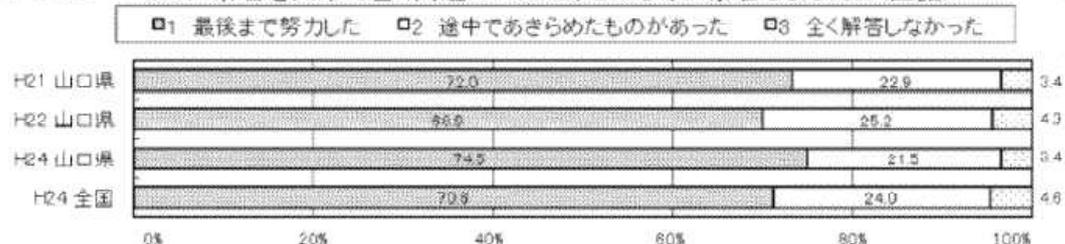
オ 文章で書く問題への取組

文章で書いたり説明したりする問題について、あきらめずに最後まで書こうと努力する児童生徒の割合は、どの教科においても全国と比べて高い傾向が見られる。

【小学校】 (55) 解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか(国語)



【中学校】 (55) 解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか(国語)



カ 起床時刻

普段、7時以前に起床する児童生徒の割合は、これまでと同様、全国と比べて高い傾向が見られる。

【小学校】 (7) 普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか



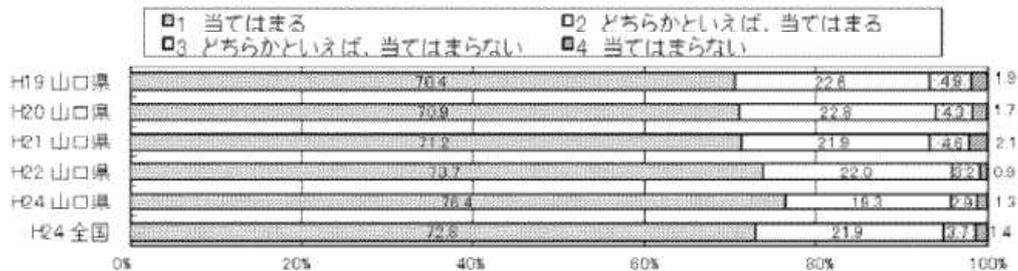
【中学校】 (7) 普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか



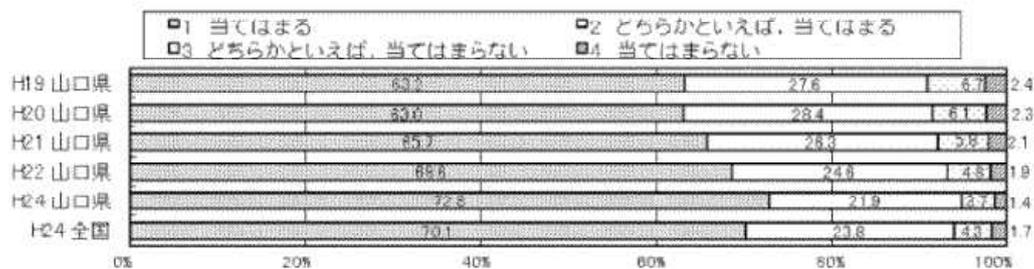
ケ 人の役に立つ人間になりたい

人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、これまで同様、全国と比べて高い傾向が見られる。

【小学校】 (37)人の役に立つ人間になりたいと思いますか



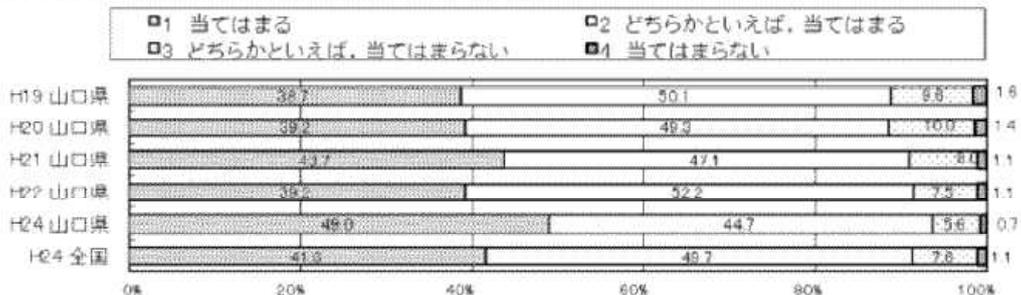
【中学校】 (37)人の役に立つ人間になりたいと思いますか



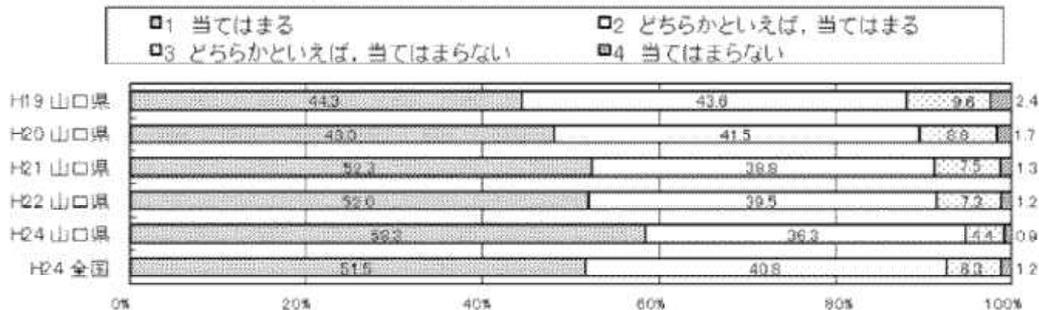
コ 学校のきまりを守る

学校のきまりを守っている児童生徒の割合は、年々増加しており、全国と比べても、高い傾向が見られる。

【小学校】 (32)学校のきまりを守っていますか



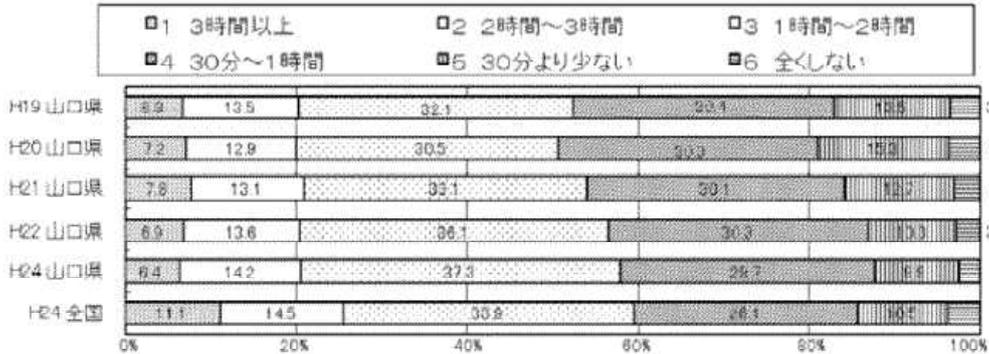
【中学校】 (32)学校の規則を守っていますか



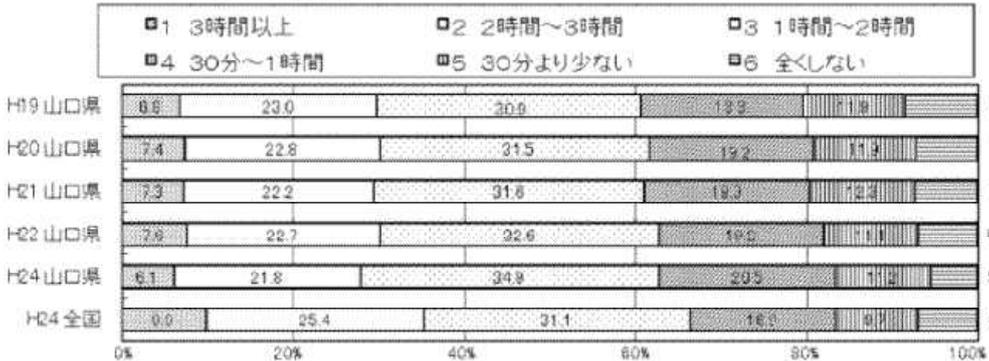
セ 平日の授業以外での学習時間

平日に授業以外に1時間以上学習する児童生徒の割合は、年々増加してきてはいるものの、全国に比べて低い傾向が見られる。

【小学校】 (14) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

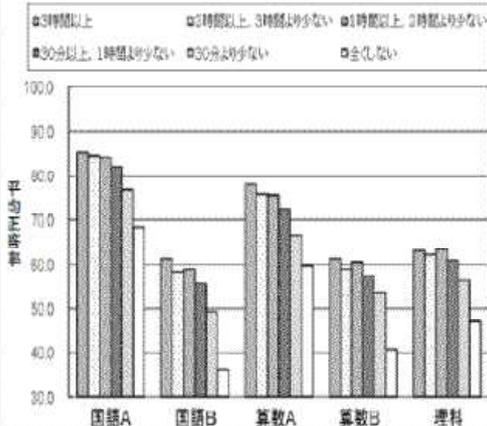


【中学校】 (14) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

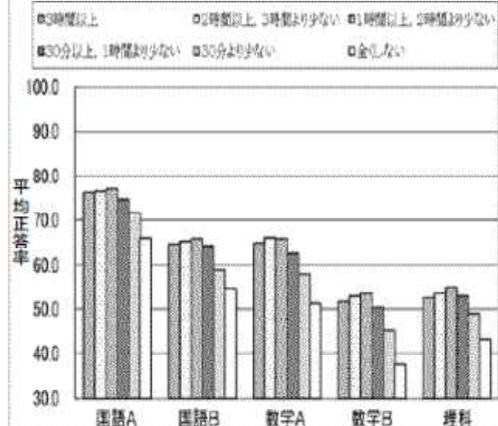


毎日1時間以上学習する児童生徒の平均正答率は、学習時間が短い児童生徒に比べて高い傾向が見られる。特に全く学習しない児童生徒とは大きな差が見られる。

【小学校】 (14) 授業時間以外に普段、一日どれくらい勉強をしますか



【中学校】 (14) 授業時間以外に普段、一日どれくらい勉強をしますか

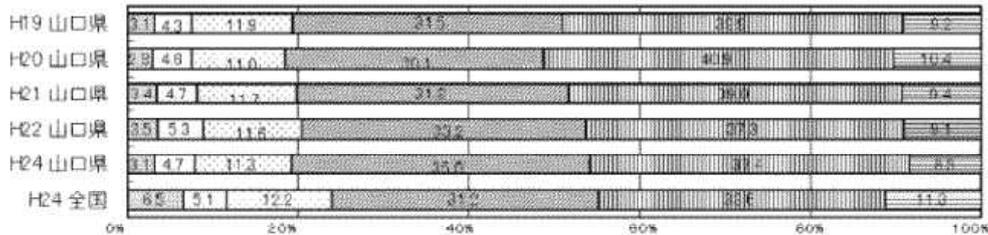


ソ 土曜日や日曜日の学習時間

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、2時間以上学習する児童生徒の割合は、全国に比べて低い傾向が見られる。

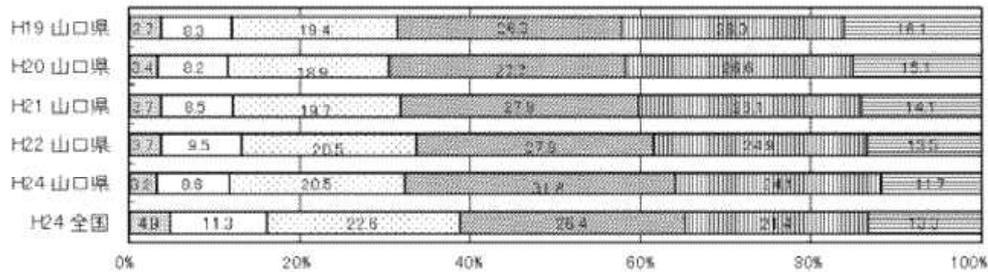
【小学校】 (15) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか

- 1 4時間以上
- 2 3時間～4時間
- 3 2時間～3時間
- 4 1～2時間
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない



【中学校】 (15) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか

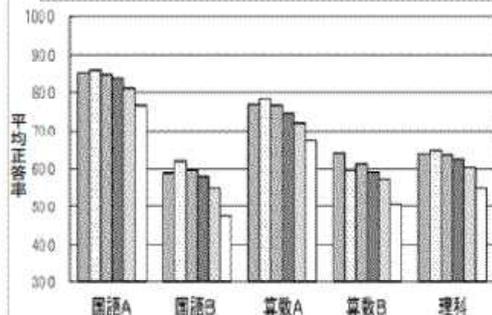
- 1 4時間以上
- 2 3時間～4時間
- 3 2時間～3時間
- 4 1時間～2時間
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない



学校が休みの日に2時間以上学習する児童生徒の平均正答率は、学習時間の短い児童生徒よりも高い傾向が見られ、特に全く学習しない児童生徒とは大きな差が見られる。

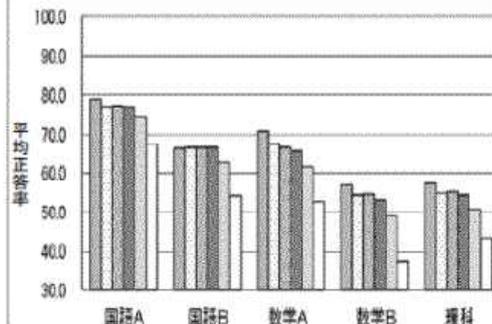
【小学校】 (15) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか

- 4時間以上
- 3時間以上、4時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 1時間より少ない
- 全くしない



【中学校】 (15) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか

- 4時間以上
- 3時間以上、4時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 1時間より少ない
- 全くしない

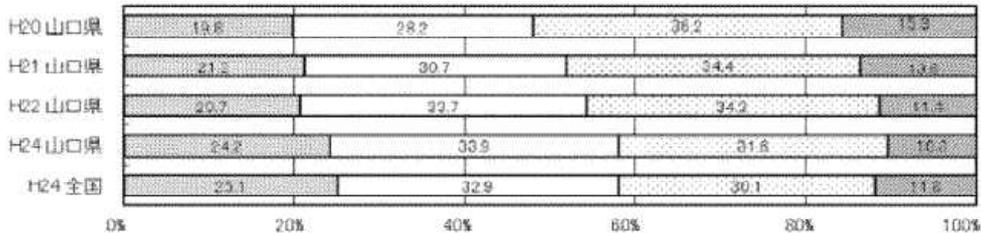


タ 自分で計画を立てて取り組む家庭学習

自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒の割合は、小学校では全国をやや上回ったものの、中学校では小学校に比べて低く、全国に比べても低い傾向が見られる。

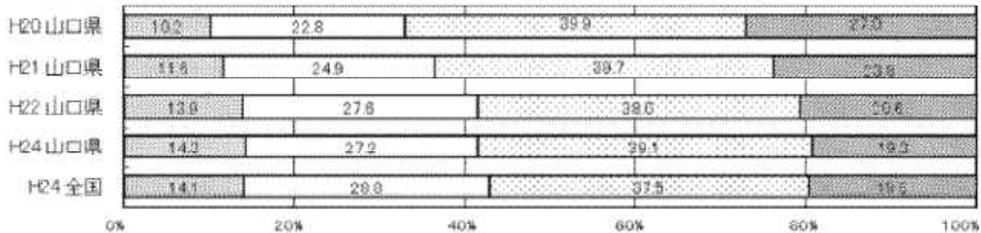
【小学校】 (23) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

□1 している □2 どちらかといえば、している □3 あまりしていない □4 全くしていない



【中学校】 (23) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

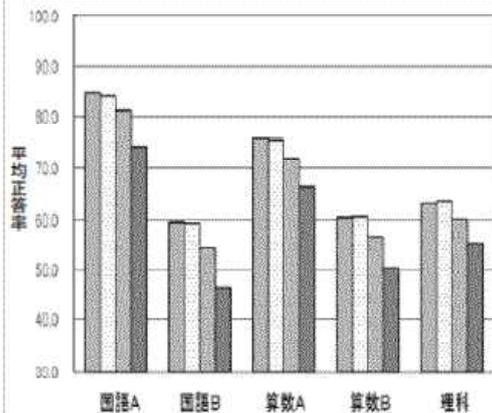
□1 している □2 どちらかといえば、している □3 あまりしていない □4 全くしていない



自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒の平均正答率は、そうでない児童生徒と比べて高い傾向が見られる。

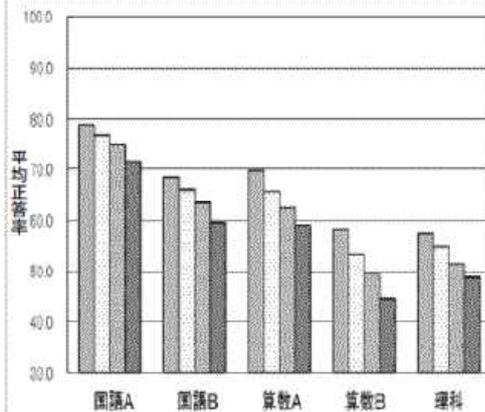
【小学校】 (23) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

□1 している □2 どちらかといえば、している □3 あまりしていない □4 全くしていない



【中学校】 (23) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

□1 している □2 どちらかといえば、している □3 あまりしていない □4 全くしていない

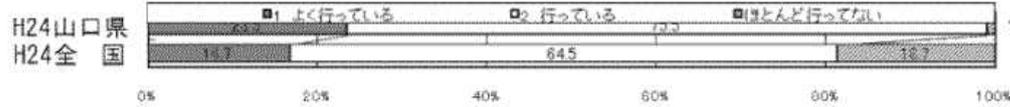
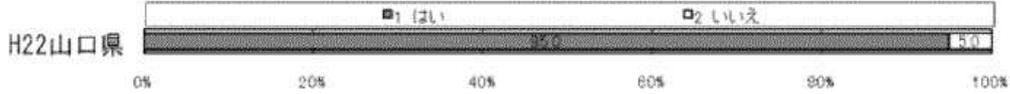


②学校質問紙（一部抜粋）

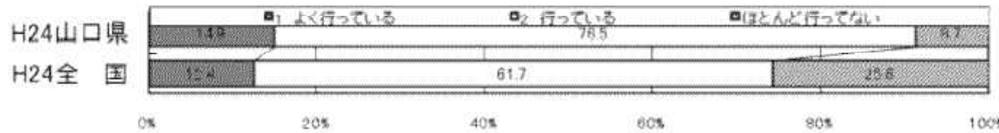
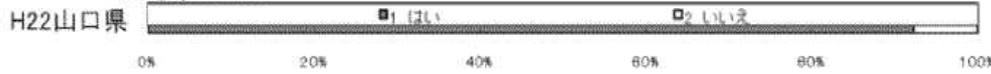
ア 学力・学習状況調査結果の活用

学力・学習状況調査等の結果を学校全体で教育活動の改善に活用した学校の割合は、全国と比べて高い傾向が見られる。※選択項目が変更（H22は2項目、H24は3項目）

【小学校】 (38) 前回の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



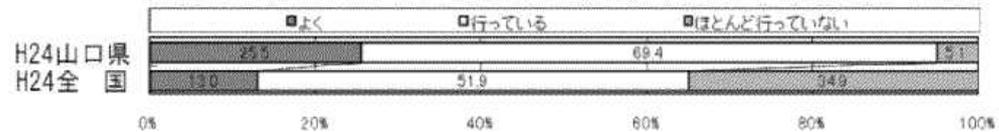
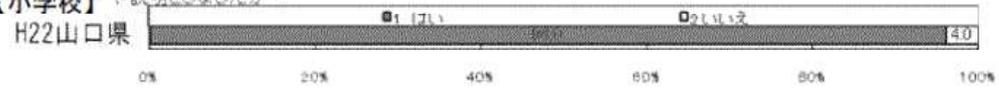
【中学校】 (38) 前回の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



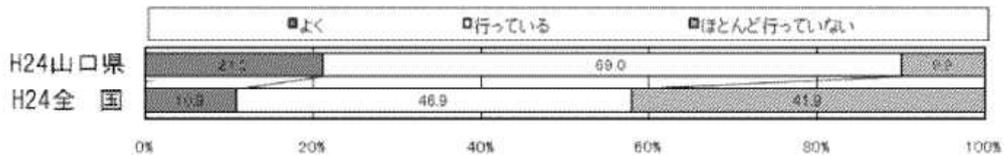
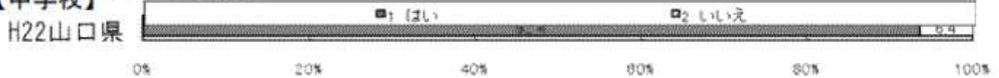
イ 学力・学習状況調査結果の共有

学力・学習状況調査等の結果を保護者や地域の人たちと共有した学校の割合は、全国と比べて高い傾向が見られる。※選択項目が変更（H22は2項目、H24は3項目）

【小学校】 (39) 前回の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自調査等の結果について、保護者や地域の人たちに公表や説明をしましたか



【中学校】 (39) 前回の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自調査等の結果について、保護者や地域の人たちに公表や説明をしましたか

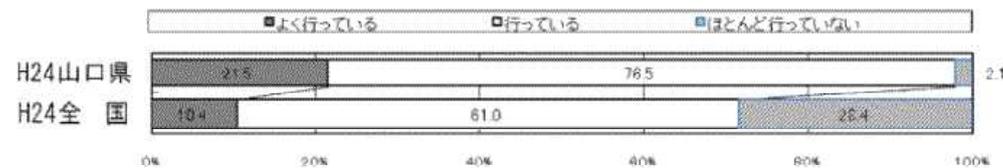
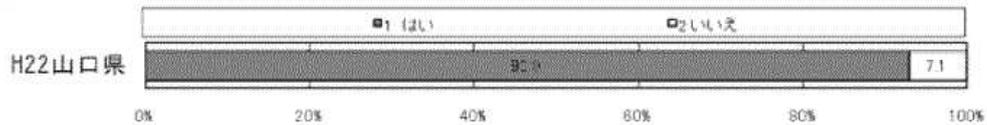


ウ 学力・学習状況調査結果等を踏まえた学力向上の取組の働きかけ

学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った学校の割合は、全国と比べて高い傾向が見られる。※選択項目が変更（H22は2項目、H24は3項目）

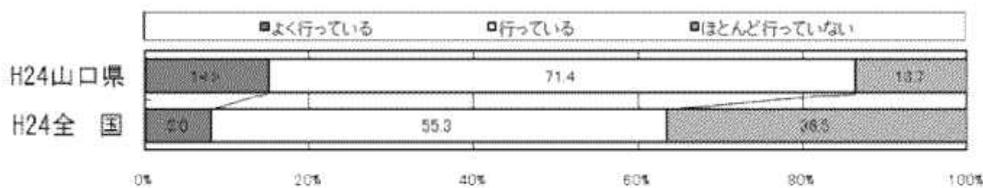
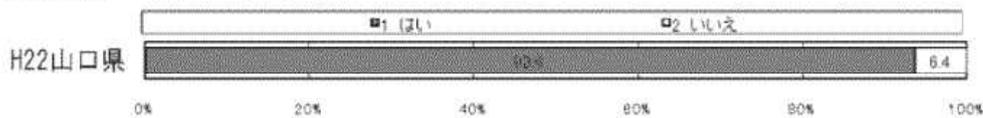
【小学校】

(40) 前回の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自調査や学校評価の結果等を踏まえた取組を保護者等に働きかけましたか



【中学校】

(40) 前回の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自調査や学校評価の結果等を踏まえた取組を保護者等に働きかけましたか

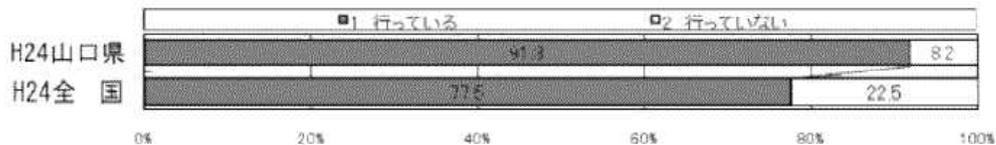


エ 小・中学校の連携

教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携していると回答した学校の割合は、全国と比べて高い傾向が見られる。

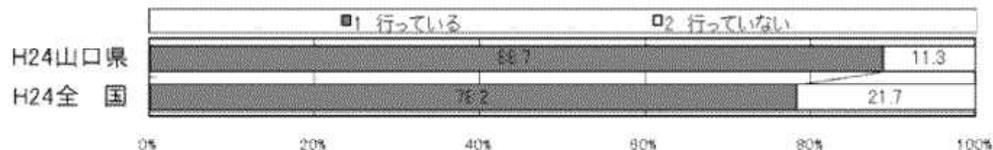
【小学校】

(68) 教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っていますか



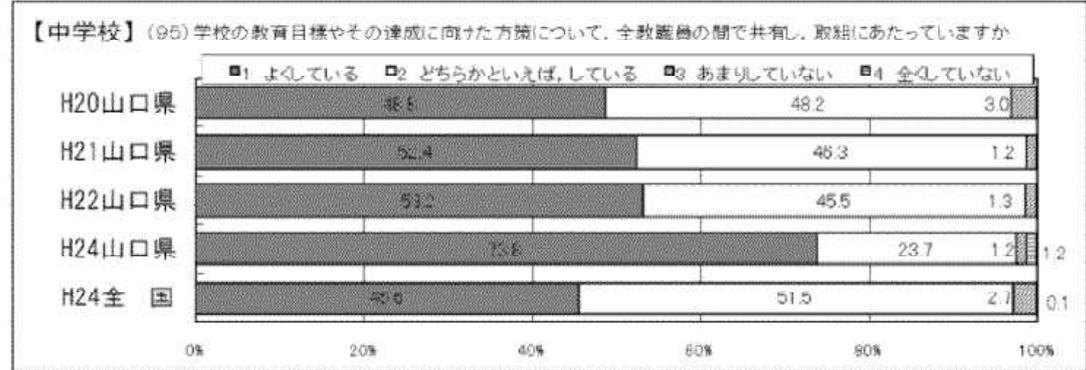
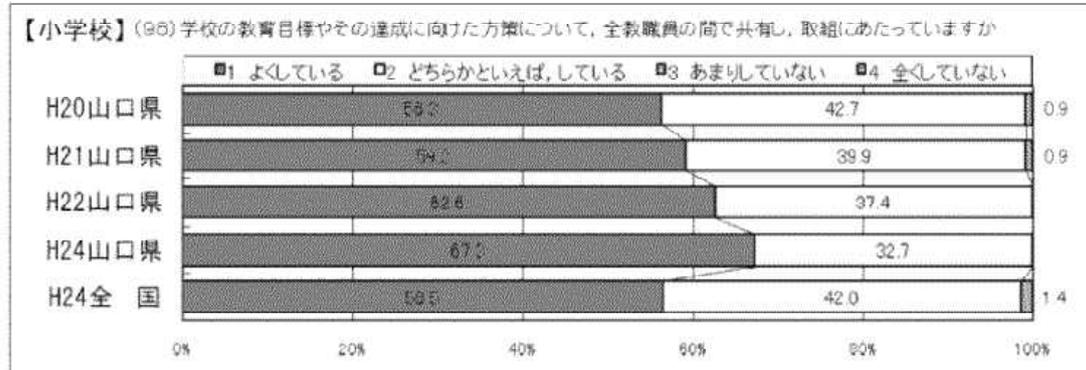
【中学校】

(68) 教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っていますか



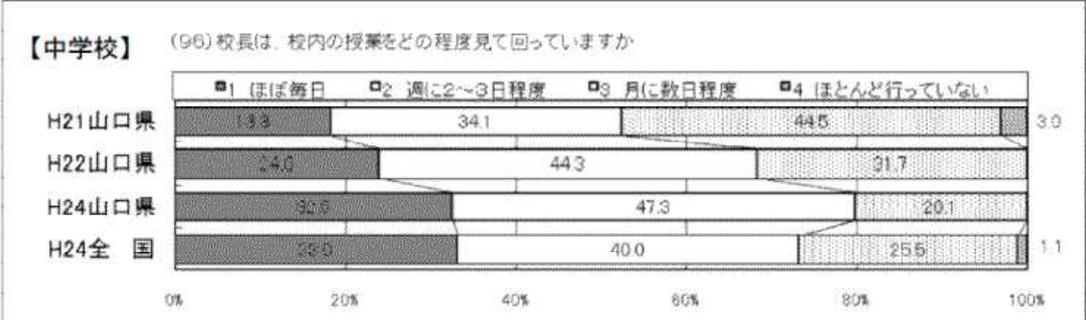
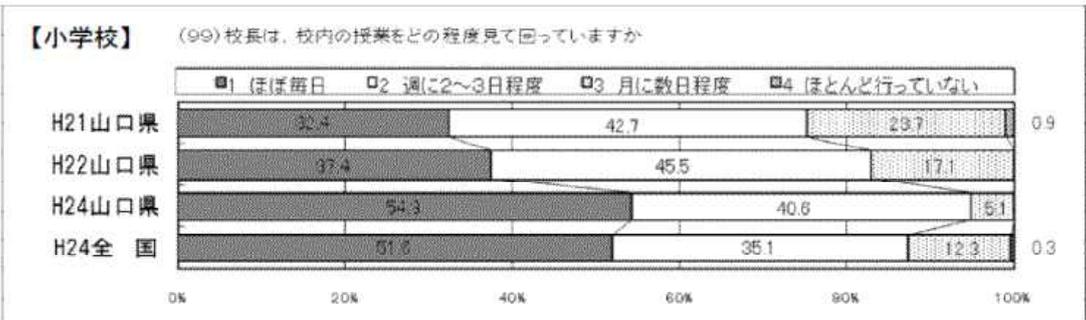
ク 学校目標や方策の全教職員での共有

学校の教育目標や方策について、全教職員で共有してよく取り組んでいる学校の割合は、年々増加しており、全国と比べても高い傾向が見られる。



ケ 校長による授業参観

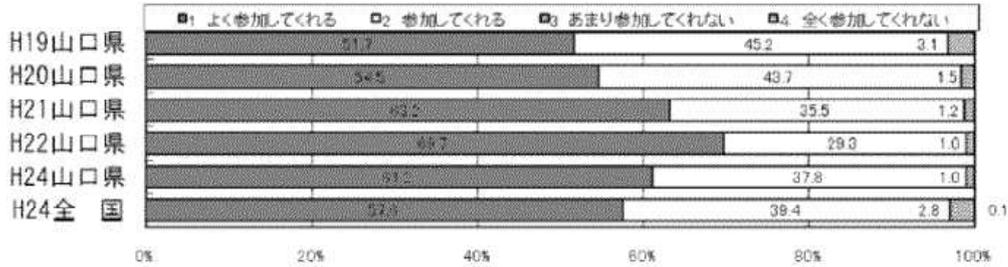
校長による授業参観の頻度は、年々増加しており、全国と比べても高い傾向が見られる。



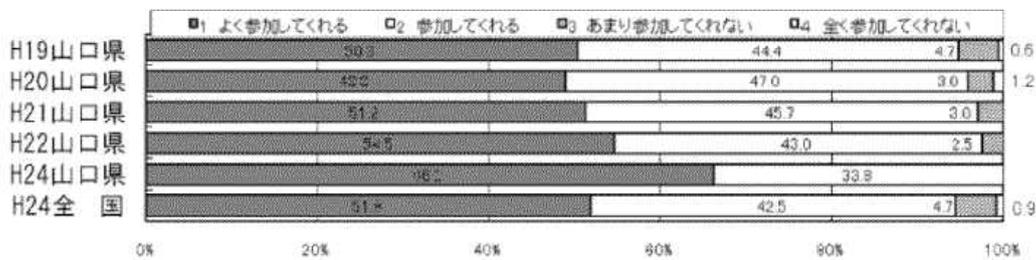
サ PTAや地域の人のボランティア参加

PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれると回答した学校の割合は、全国と比べて高い傾向がみられる。

【小学校】 (73) 第6学年の児童に対して、前年度までに、PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれましたか



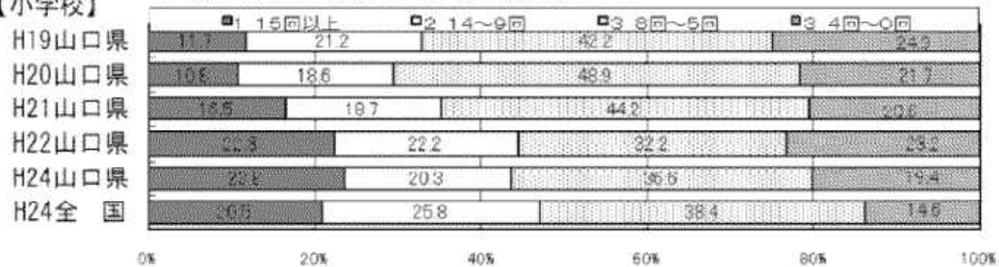
【中学校】 (71) 第3学年の生徒に対して、前年度までに、PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれましたか



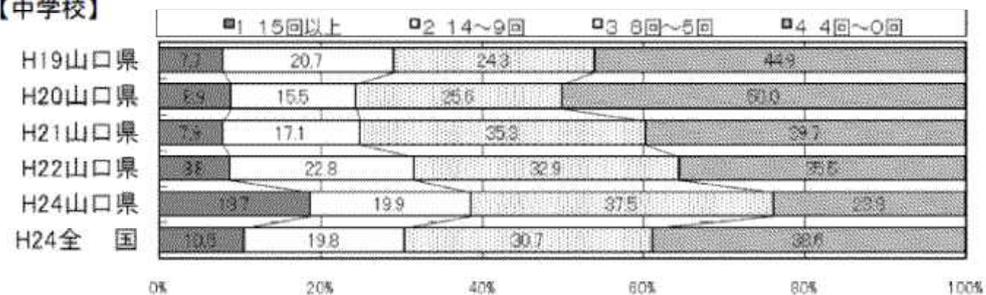
シ 授業研究を伴う校内研修

年間5回以上の授業研究を伴う校内研修を実施している学校の割合は、小学校では全国と比べて低い傾向が見られ、中学校では全国と比べて高い傾向が見られる。

【小学校】 (95) 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか



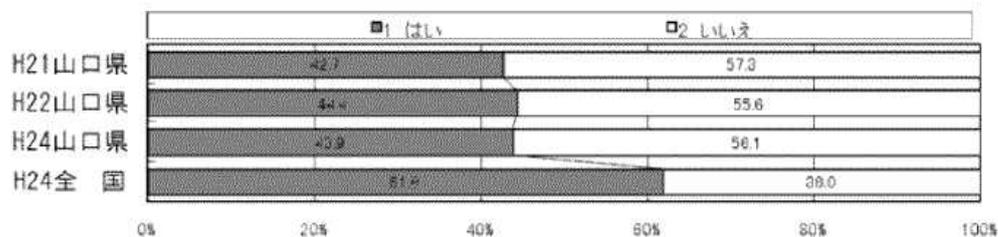
【中学校】 (92) 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか



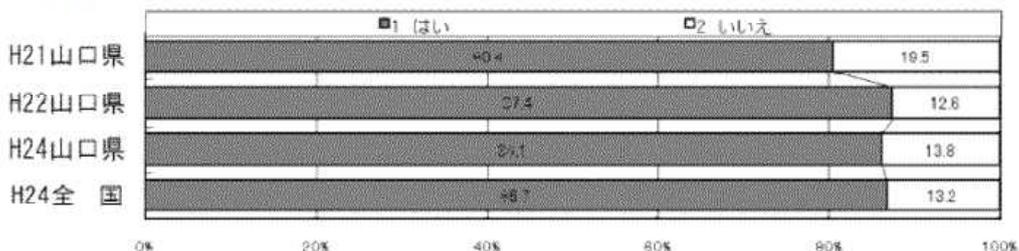
セ 放課後の補充的学習

放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、全国と比べて低い傾向が見られ、小学校においては、その傾向が顕著に見られる。

【小学校】 (19) 第6学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



【中学校】 (19) 第3学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



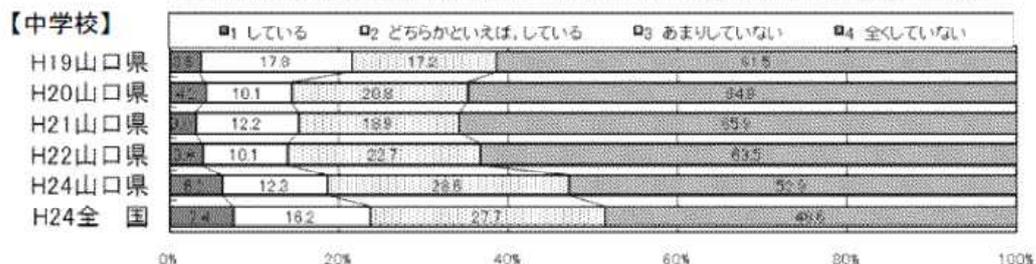
ソ ボランティア等による授業サポート

ボランティア等による授業サポートを行っている学校の割合は、年々増加してきてはいるものの、全国と比べて低い傾向が見られる。

【小学校】 (70) 第6学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか



【中学校】 (66) 第3学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか



【主な意見】

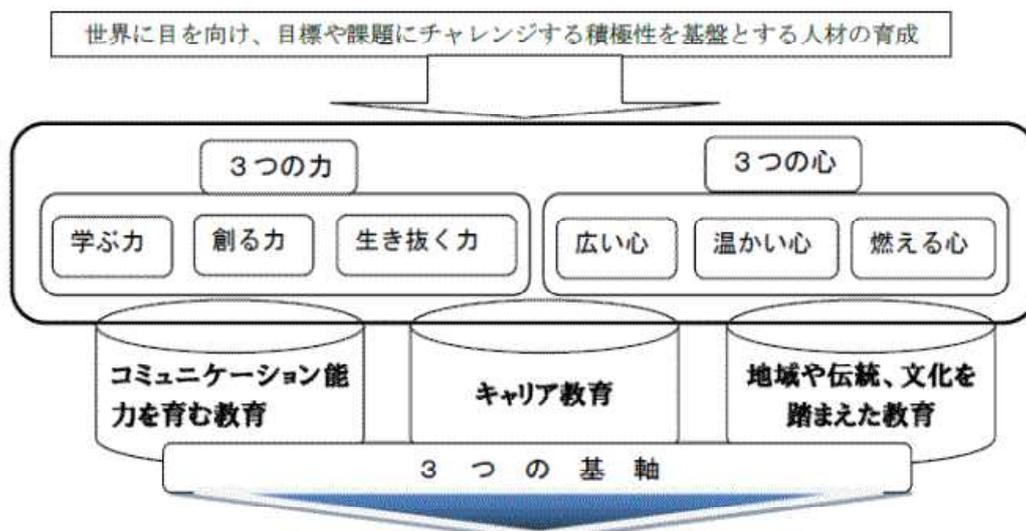
- 清水・稲野委員：小学校6年生の受験時の結果と、中学校3年生時時の結果を比較すると、中学校で改善が見られる。これは、中学校における教育が児童生徒に定着しているからと思われるが、その定着に寄与した要因を分析し、今後の取組に結びつけてほしい。
- 清水委員：小学校の結果は、経年的に改善していると思われる。継続的な取組が結果につながると思われるため、中学校と同様にその要因を具体的に分析し、取組につなげてほしい。
- 義務教育課長：各市町教育委員会と連携し、今後もしっかりと検証をしていきたい。また、全県的にはやまぐち学習支援プログラム等により、活用する力を高めるような取組体制もあるため、今後も引き続き取り組んでいきたい。
- 岡野・山縣委員：全国学力・学習状況調査結果の上位県と比較することにより、その取組内容について、検討していき、本県の取組に反映させてほしい。
- 教育長：4月に開催された県・市町教育委員会において、体力向上の取組により、児童の学力向上も見られたと話を伺っているところであり、さまざまな観点から学力向上に取り組んでいきたい。

意見交換

◆『グローバル人材の育成』について意見交換した。

【概要】

山口県におけるグローバル人材の育成について



山口県におけるグローバル人材の育成に向けた目標

- (1) 語学力（英語力）、コミュニケーション能力の向上
- (2) 郷土・日本・諸外国の文化や伝統などを理解し尊重する態度の育成
- (3) 国際協調・協力を実践する態度の育成

小学校における目標	中学校における目標	高等学校における目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語の基本的な表現を用いて、海外の青少年と進んでコミュニケーションを図ることができる。 ・ 海外の青少年との交流など国際交流活動を通して、異文化を理解するとともに、自国や他国の文化や伝統を尊重しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に外国語を用いて、海外の青少年と進んでコミュニケーションを図ることができる。 ・ 海外の青少年との交流など国際交流活動を通して、異文化に対する理解を深めるとともに、自国や他国の文化や伝統を尊重しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に外国語を用いて、海外の青少年と進んでコミュニケーションを図ったり、テーマを決めて意見交換を行ったりすることができる。 ・ 海外の青少年との直接的な交流など国際交流活動を通して、異文化に対する理解を深めるとともに、自国や他国の文化や伝統を尊重し、国際社会に生きる主体的な日本人としての在り方や生き方を探求しようとする態度を育てる。
小・中・高等学校の連携		

1 グローバル人材が求められている背景（グローバル化）

情報通信・交通手段等の飛躍的な技術革新を背景として、政治・経済・社会等あらゆる分野で「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が国境を越えて高速移動し、金融や物流の市場のみならず、人口・環境・エネルギー・公衆衛生等の諸課題への対応に至るまで、全地球的規模で捉えることが不可欠となっている。

【H24.6.4グローバル人材育成推進会議審議まとめ】

※ グローバル人材とは、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身に付け、国際的に活躍できる人材

2 グローバル人材に必要な資質・能力

○ 「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね次のような要素

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

○ このほか、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等

【H24.6.4グローバル人材育成推進会議審議まとめ】

3 全国の状況

○ グローバル人材の育成をめぐる近年の状況

図1：日本人の海外留学者数（大学生）

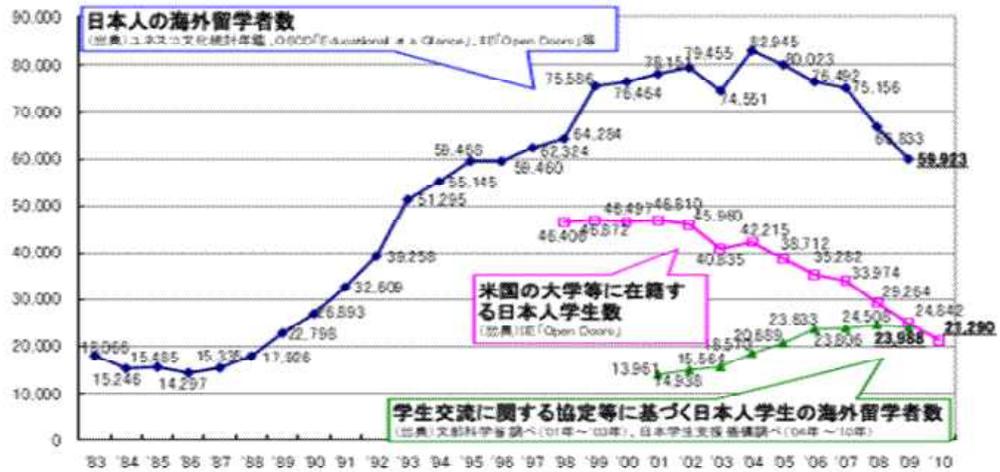


図2：国（地域）別学生の海外派遣者数の推移（大学生）

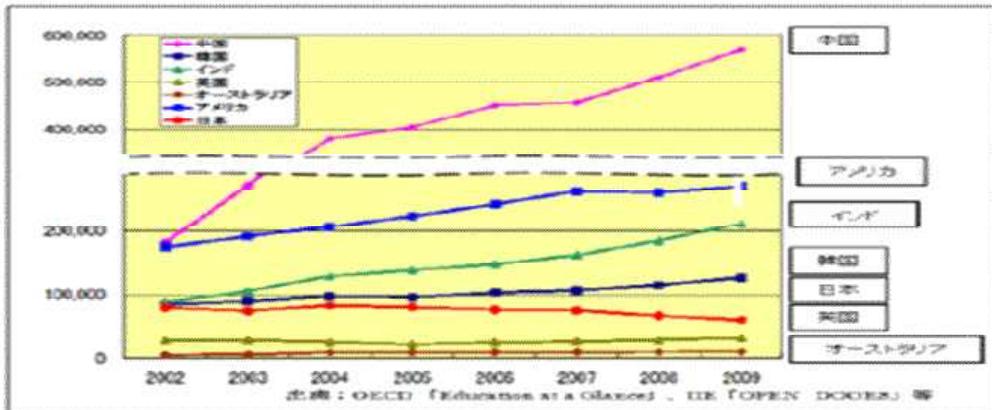
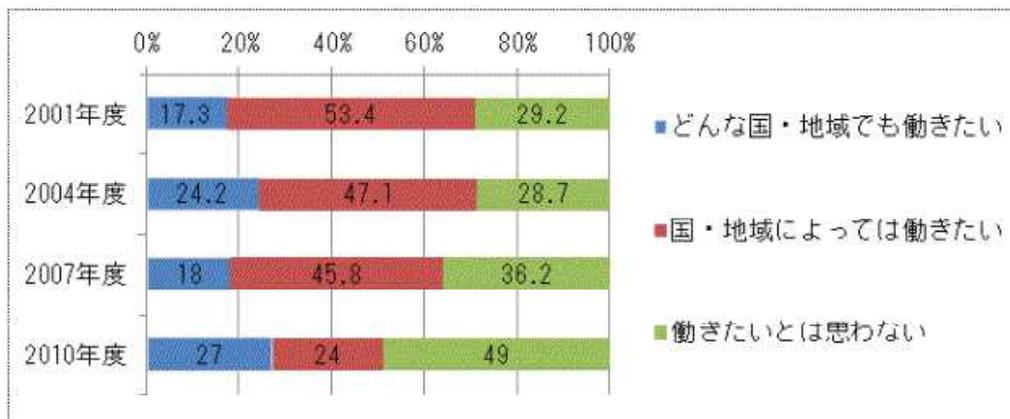


図3：日本人学生の留学に関する主な障害（大学生）

	件数	比率 (87大学中)
①就職	59	67.8%
②経済	42	48.3%
③体制	32	36.8%
	23	26.4%
	21	24.1%
	9	10.3%
	7	8.0%
	3	3.4%
その他	27	31.0%

※国立大学協会国際交流委員会留学制度の改善に関するワーキング・グループが、各国立大学に対して留学制度の改善に関するアンケートを実施。
 ※本調査項目には87大学が回答。
 ※平成19年1月

図4：新入社員の海外勤務希望



出典：学校法人産業能率大学「第4回新入社員のグローバル意識調査」（2010年7月）

図5：TOEFL の成績の国別ランキング(2010年)

※TOEFLは英語検定テストの一つで、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を総合的に測定しており、世界中で毎年100万人近くが受験している。

<全体順位> (163か国中)

順位	国名	TOEFLスコア
1位	オランダ	100
2位	デンマーク	99
3位	シンガポール オーストリア	98
...		
80位	韓国	81
...		
105位	中国	77
...		
135位	カメルーン、トーゴ、 クウェート、日本	70
139位	ギニア、シエラレオネ	69
...		

<アジア内順位> (30か国中)

順位	国名	TOEFLスコア
1位	シンガポール	98
...		
24位	アフガニスタン、モンゴル、 ベトナム	73
27位	日本	70
28位	ラオス人民民主共和国	67
29位	タジキスタン	66
30位	カンボジア	63

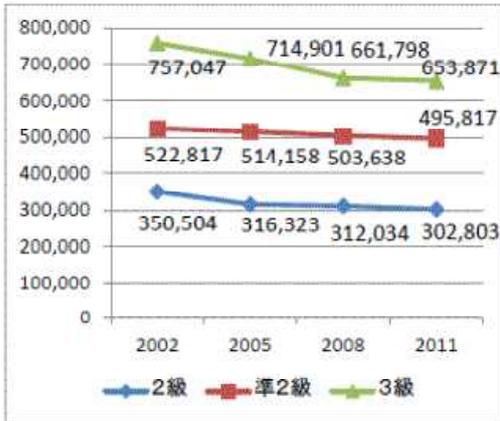
出典：ETS-Test and Score Data Summary for TOEFL Internet-based and Paper-based Tests JANUARY 2010-DECEMBER 2010 TEST DATA

4 本県の現状

○ 実用英語技能検定の受験状況

○ 全国

受験者数の推移

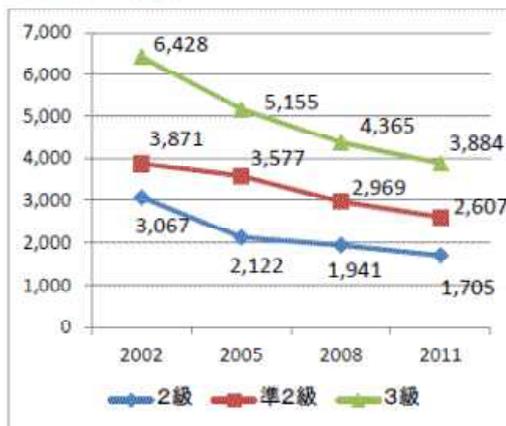


合格率の推移

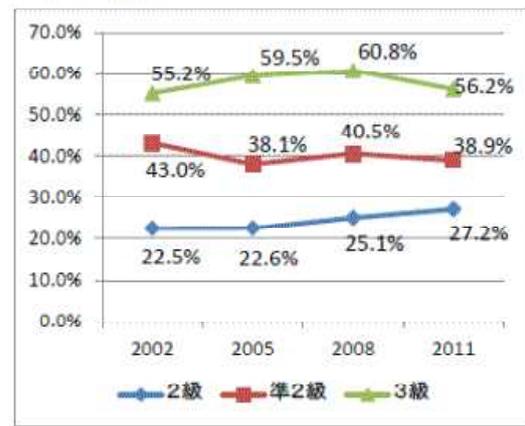


○ 山口県

受験者数の推移



合格率の推移

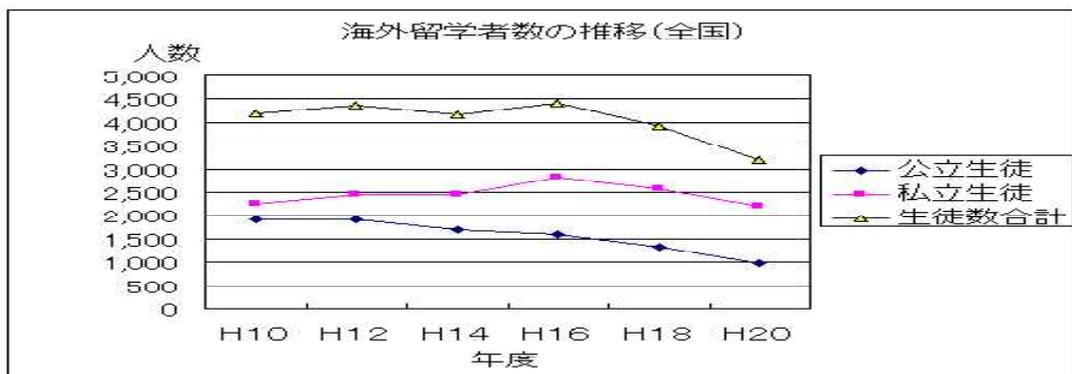


○ 高校生海外留学者数の推移

① 海外留学者数の推移 (全国)

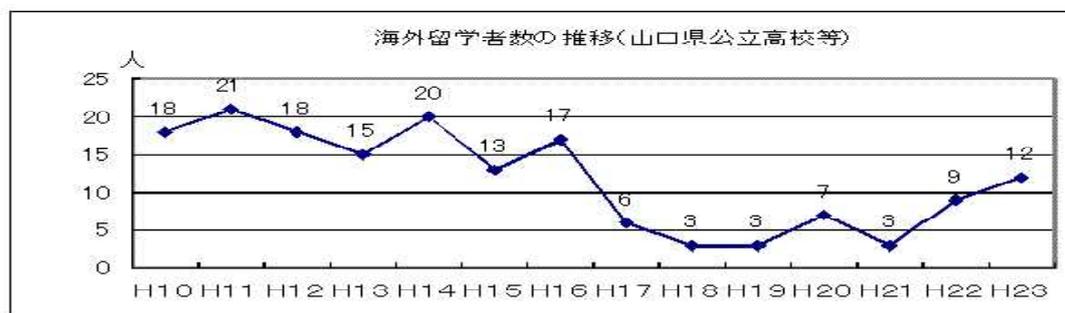
留学期間が3か月以上の留学者数の合計は、平成16年度をピークに減少傾向にあり、特に、平成18年度から平成20年度にかけては、大きく減少している。

全体的に「内向き志向」の傾向がみられる。



②海外留学者数の推移（山口県公立高等学校等）

平成10年度以降では、平成11年度の21人をピークに減少傾向であったが、最近2年間は増加傾向にある。ただし、ピーク期と比較すると依然として少ない。



○ 山口県公立高等学校等姉妹校提携状況

- ・ 岩国商業高校 … 中国 山東省済南第七職業中等專業学校
- ・ 光丘高校 … 韓国 慶南航空高等学校
- ・ 華陵高校 … 韓国 釜山大学校師範大学附設高等学校
- ・ 防府商業高校 … 中国 山東省済南第二職業中等專業学校
- ・ 山口高校 … 中国 山東省実験中学校
- ・ 宇部高校 … オーストラリア コタラ高等学校
- ・ 宇部西高校 … オーストラリア ニューカッスル高等学校
- ・ 下関中等教育学校… 韓国 晋州高等学校
- ・ 下関商業高校 … 中国 青島交通職業高級中学校、
韓国 開成高等学校

[平成23年度やまぐち国際化ハンドブックによる]

5 山口県におけるグローバル人材の育成に向けた目標

世界に目を向け、目標や課題にチャレンジする積極性を基盤とする。

- ① 語学力（英語力）、コミュニケーション能力の向上
- ② 郷土・日本・諸外国の文化や伝統などを理解し尊重する態度の育成
- ③ 国際協調・協力を実践する態度の育成

6

現在の取組

<取組1>語学力（英語力）、コミュニケーション能力の向上

- 小学校における外国語活動の一層の充実 [新たな教材「Hi, Friends!」や電子黒板の活用]
- 小・中学校連携の取組として、授業の相互乗り入れや合同研修会の実施
- 全ての高校において、「英語力を強化する指導改善の取組事業」による教員の指導力改善の取組 [拠点校1校と協力校5校を中心とする]
- 児童生徒の英語の使用機会拡充に向けたALTやICTの活用

＜取組2＞郷土・日本・諸外国の文化や伝統などを理解し尊重する態度の育成

- 「慶尚南道友好相互交流事業」においては、毎年12人の高校生の派遣及び受入れを行っており、今年度の派遣については、交流目的を「理数教育」として、韓国語又は英語によるプレゼンテーション等を実施
- 「慶尚南道高校生スポーツ交流計画」として、高校生スポーツ交流団による親善試合及び交換交流会を実施
- 海外の高校との新たな姉妹校提携を含めた友好交流〔現在、海外の高校等と姉妹校提携している公立高校等は10校〕
- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）における海外の高校・大学との交流の充実
- 「高校生留学支援事業」として、海外留学をする高校生に一人40万円の経費支援〔7人〕
- 「グローバル人材育成のための講師派遣事業」として、国際的に活躍している人材による講演を実施する学校の支援〔7校程度〕
- 「これが私の故里だ～山口県伝統・文化教材集～」を活用した授業実践の推進

＜取組3＞国際協調・協力を実践する態度の育成

- 山口県で開催される日本ジャンボリー（H25）及び世界スカウトジャンボリー（H27）に向けたプロジェクトチームの立ち上げ〔地域プログラム（学校訪問等）の策定〕
- ユネスコスクール（ユネスコ憲章の理念を学校現場で実践し、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかるネットワーク）への参加促進

7 今後の具体的取組（案）について

- ALTを活用した活動（英語による研究発表等）の充実
- 国際理解教育推進のための人材バンクの充実 → やまぐち教育応援団の活用
- 留学支援体制の拡充
- 世界スカウトジャンボリー後の国際交流活動の促進
- 国際科学技術コンテスト（数学、物理、化学、生物、地学、情報等）や課題系コンテスト（国際学生科学技術フェア等）へのチャレンジ、TOEIC等の検定試験の活用奨励
- 大学等との連携強化の促進（県内大学の留学生や国際文化学部学生との交流）

【主な意見】

- 清水委員：県教育委員会の取組を、児童生徒に身近な取組として仕組んでいくことが必要ではないか。
- 清水委員：児童生徒が目的を持ち、海外留学を行う機会を多く設けることにより、グローバル人材の育成の取組を推進できるのではないか。
- 稲野委員：グローバル人材とは、日本が世界においてどのような役割をもち、どのようにその役割を果たしていくべきかという意識を持てる人材と思われる。

- 稲野委員：世界に進出し、活躍する人材と、日本で世界的に活躍する人材では、求める資質等が異なると思われる。そのため、生徒自身が、どの能力を培っていくか、自分自身の立場で考えていくことができるようにすることが、グローバル人材の育成につながるのではないか。
- 稲野委員：児童生徒の英語力を実用的に活用できるような取組等の検討が必要ではないか。
- 山縣・岡野委員：児童生徒が、夢や目的をもって英語教育をはじめとする教育を受けることにより、その学習が身に付くと思われるため、児童生徒の夢や目的をもたせるように取組を展開してほしい。
- 山縣委員：現在は、人、モノなどがグローバルに展開している時代であると思われる。そのため、世界に羽ばたくようなチャレンジ精神を育む教育を進める必要があると思われる。
- 岡野委員：国際協調・協力を実践する態度の育成には、海外留学を行うだけではなく、日本にいて活動できる取組も活用できるのではないか。そのような活動を児童生徒に周知していくことが大切である。
- 岡野委員：ALTの方から直接英語の授業を受けることにより、子どもたちが英語に親しみを持つと思われるため、多くの子どもがALTから授業を受けられる機会を設けてほしい。
- 岡野委員：文化交流により、海外とつながる機会もあると思われるため、文化交流を含めた幅広い取組により、グローバル人材の育成につなげてほしい。
- 清水委員：グローバル人材とは、目標に向けて、国の境などを考えず、ボーダレスに物事を考えて、行動のできる人ではないか。
- 清水委員：海外留学を行うことにより、児童生徒の就職活動への不利益や経済的負担の増加など障害となりうる事柄を取り払えるような取組も重要と思われる。
- 村上委員長：グローバル人材の育成には、子どもの時に「本物」に出会い、それを夢や目標として、実現できる支援を行うことが大切であると思われる。そのため、まずは、子どもたちに「本物」に出会う機会を設けていくことが必要と思われる。
- 村上委員長：平成25年開催の日本ジャンボリーや平成27年開催の世界スカウトジャンボリーの地域プログラムを、子どもたちの国際交流の機会と捉え、取り組んでほしい。
- 教育長：グローバル人材の育成に向けて、山口県で開催される日本ジャンボリーや世界スカウトジャンボリーの機会を活かして、大会会期中の一過性の取組ではなく、さまざまな取組を推進していきたい。